

パナマ国営教育テレビ放送計画
計画打合チーム報告書

昭和58年5月

国際協力事業団

パナマ国営教育テレビ放送計画
計画打合チーム報告書

昭和58年5月

国際協力事業団

JICA LIBRARY



1053105E1J

海 七
J R
83-163

国際協力事業団	
受入 月日 '81 3.12	618
登録No. 10066	79
	SDC

パナマ国営教育テレビ放送計画 計画打合せチーム報告書

目 次

I 計画打合せチームの派遣	1
1. 派遣の経緯と目的	1
2. チームの構成	1
3. 主要面談者	2
4. 打合せ日程	3
II 打合せ・調査内容	4
1. 概 要	4
2. 打合せ内容(特記事項)	4
(1) 日本人専門家との打合せ	4
(2) カウンターパートとの打合せ	5
(3) カナルオンセとの打合せ	5
(4) 文部大臣・パナマ大学長に対する表敬及び打合せ	6
(5) 大使館の見解	7
3. 調査内容	7
(1) 送信所視察	7
(2) スタジオ視察	8
(3) 訓練計画	8
(4) プロジェクト達成目標	13
(5) 訓練予定人数	14
(6) カウンターパートの現状	15
(7) 供与機材の現況	17
(8) 建物の状況	18
III 覚書について	19
1) 訓練計画	19
2) 訓練参加者準備	19
3) 日本人専門家	19
4) カウンターパート	19

5) 日本での研修	19
6) 機材	20
7) 予算の支出	20
8) 建物・場所の準備	20
9) 合同委員会 (Steering Committee)	20
10) 作業委員会 (Working Committee)	20
Ⅳ 今後の問題点	21
Ⅴ 放送分野における海外センター協力事業について	22
Ⅵ 結 論	24
付 属 資 料	
1. Memorandum 英文 (正本), 西文, 和文訳	25
2. カナルオンセ局組織図	49
3. プロジェクト実績表	53
4. プロジェクト計画及び実績対照表	57
5. プロジェクトR/D 英文	93
6. カナルオンセ局建物・部屋図面	113
7. カナルオンセ局関係予算 (Presvuesto de Canal Once)	117
8. 供与済機材リスト一覧	127
9. カナルオンセ局関係一般資料	179
(1) Diagnostico General (Propuesta de Organigrama General) Television Educativa	182
Identification General de Los Departamentos	188
(2) Organigrama Actual del Canal Once en Education Y Universidad	199
(3) Logros Alcanzados	202
(4) Limitaciones Enccntrados	206
(5) Proyectos Futuros	208
(6) Area de Cobertura National de Canal Once	211
(7) Planificacion Y Programacion Canal Once	223
(8) Canal Once Estructura del Personal	232

(9) Hechos Históricos 236

I 計画打合せチームの派遣

1. 派遣の経緯と目的

日本のパナマ国営教育テレビ局（カナルオンセ＝第11チャンネル）に対する協力は、1973年（昭和48年）の教育テレビ放送調査団派遣に始まり、以後、専門家派遣・研修生受入れ等の協力を行ってきた。

パナマ国政府は、1980年1月、日本国政府に対し、国家開発5ヶ年計画の一環としての、教育水準の向上、基礎技術の普及及び文盲率の改善を目的とする国営教育テレビ放送局へのプロジェクト方式の技術協力を要請してきた。

これを受け、日本国政府は1980年6月事前調査団を、1981年1月実施協議チームを派遣し、1981年2月11日R/Dを締結、1986年2月10日までの5年間、番組制作、スタジオ技術、送信技術及び特殊専門技術の4分野について、教育テレビ放送発展のために必要な技術者養成訓練の協力を行うこととなった。

このR/Dに基づき専門家派遣、研修生受入れ及び機材供与を行ってきたが、協力開始後2年が過ぎ、スタジオ工事、主要機材の据付けが終了し、これから訓練が本格的に動き出す段階に至ったため、1983年3月11日から3月21日までの11日間、これまでのプロジェクト運営状況を把握し、問題点について調査・検討のうえ、パナマ側関係者及び日本人専門家と、今後の実施方針に係る協議を行うと共に、次年度の具体的な実行計画を策定するために、今回の計画打合せチームが派遣された。

そして、今回のチームが行ってきたことは、基本的には次の2点である。

- (1) 残る3年間の訓練計画・目標の設定、技術移転の受皿となるカウンターパートの特定等、残る協力期間のための整理を行った。
- (2) 日本側はR/Dにそって協力をきちんと実行しているが、それに対し、パナマ側には対応に遅れがあるということを確認させた。

2. 計画打合せチームの構成

団 長	総 括	勘 場 宏 海	郵政大臣官房国際協力課企画官
団 員	技術協力一般	原 口 亮 介	郵政大臣官房国際協力課
団 員	放送企画	宇 田 信一郎	日本放送協会経営企画室国際協力担当部長
団 員	協力企画	橋 本 東 一	国際協力事業団社会開発協力部海外センター課課長代理

3. 主な面談者

(パナマ側)

(1) 教 育 省

大 臣 Susana Richa de Torrijos

(2) パナマ大学

学 長 Ceferino Sanchez

事 務 局 長 Jorge Arosemena

(3) 経 済 企 画 庁

技 術 協 力 局 長 Gabriel Verasquez

(4) 大 統 領 府

大 統 領 顧 問 Jose Guillermo Gonzales

(5) カナルオンセ

局 長 Itzel de Cortes

副 局 長 Julio Barba

(日本側)

(1) 大 使 館

茂 木 大 使

柴 田 参事官

千 田 書記官

(2) 日 本 人 専 門 家

栗屋チームリーダー

相沢番組制作専門家

緒方送信技術専門家

富森スタジオ技術専門家

4. 計画打合せチーム打合せ日程

日順	月日	曜日	行 程	打 合 せ 内 容
1	3/11	(金)	東京 NW018 ニューヨーク(泊)	
2	12	(土)	PA427 パナマシティ	着後 日本人専門家との打合せ
3	13	(日)	パナマシティ滞在	日本人専門家との打合せ
4	14	(月)	〃	(午前) 大使館表敬・派遣目的説明 (午後) カナルオンセ表敬・打合せ
5	15	(火)	〃	(午前) カウンターパートとの意見交換 (午後) 送信所(セロ・オスクーロ)視察
6	16	(水)	〃	(午前) スタジオ視察・番組制作見学 (午後) カナルオンセ打合せ
7	17	(木)	〃	(午前) カナルオンセ打合せ パナマ大学長表敬・打合せ (午後) 文部大臣表敬・打合せ
8	18	(金)	〃	(午前) カナルオンセ制作番組の試聴 メモランダム署名 (午後) 大使館への報告
9	19	(土)	パナマシティ AM420 メキシコ シティ(泊)	
			PA021 東京	

Ⅱ 打合せ・調査内容

1. 概 要

1) 計画打合せチームのパナマ滞在期間は1週間と短期間であったので、相手側との協議を効果的に行なうため、プロジェクト開始後整理する必要のある事項を10項目にまとめ討議資料(Papers for Discussions)として持参し、現地において、日本人専門家とその内容につき協議の上、第1回目のパ側との協議席上これを提案した。第2回目の協議席上、「パ」側はこれを全面的に合理的改善案として受入れ、更にカウンターパートの特定、日本人専門家用場所の確保、日本研修生の雇用関係の確保等につき、パ側の前広な修正案提案があり、これを日本側が同意し、第3回目の協議日に、「パ」・「日」双方の合意するところを覚書(別添資料参照)として残し、今後の本プロジェクトの効果的運営に資するよう、直ちに実現可能なものとして、双方で実行して行くこととした。

2) 上記交渉の合間に、パナマ大学学長及び文部大臣表敬を同日に別途行なった。これは、当方の希望するSteering Committeeの開催が、メンバー間の都合がつかず、出来ないとの事であったので本プロジェクト「パ」側の上部機構である両機関長を訪問したのである。

この双方の機関長へは、打合せチーム団長から、「パ」側と交渉結果として、4点につき今後の留意に改善点を申し入れた(後述詳細)。

これに対し大学学長・文部大臣共に卒直な見解表明を歓迎し、提起された問題について、早急に関係者と協議検討し、善処したい旨の回答があった。尚文部大臣との会見の席には大統領府、経済企画庁等の補佐官が同席した。

2. 各打合せ内容(特記事項)

(1) 日本人専門家との打合せ

① 日 時 3月13日(日) 13:00~19:00

② 出席者 計画打合せチーム

カナルオンセ派遣日本人専門家

② 内 容 日本人専門家からカナルオンセの現状につき事情聴取を行い、また、カナルオンセに提出する討議資料、暫定訓練プログラム案及び訓練目標案につき説明及びそれについての意見交換を行った。

それぞれ、日本人専門家の意見を取り入れて修正、特に暫定訓練プログラム案及び訓練目標案については、現地の状況を勘案しての修正が行なわれたが、基本の方針についての変更はなかった。

(2) カウンターパートとの打合せ

- ① 日 時 3月15日(火) 9:00～11:30
- ② 出席者 計画打合せチーム
カナルオンセ派遣日本人専門家
カウンターパート
栗屋リーダー Itzel de Cortes 局長
Julio Barba 副局長
相沢専門家 Luis Prescott 番組制作部長
Marina de Vergas プロデューサー
富森専門家 Manuel Reyes スタジオ技術副部長
緒方専門家 Jose Lasso de Vega 送信技術部員
- ③ 内 容 互いに自由な意見交換を行ったが、日本での研修に関して、個別研修を長くしてほしい。機械に触れる時間を長くして欲しいとの要望が出された。また、技術協力におけるカウンターパートの重要性について、再認識させた。

(3) カナルオンセとの打合せ

- ① 日 時 3月14日(月) 14:00～17:30
3月16日(水) 15:30～18:30
3月17日(木) 9:00～10:00
- ② 出席者 計画打合せチーム
カナルオンセ派遣日本人専門家
カナルオンセ局長、副局長
- ③ 内 容 計画打合せチームから討議資料を提出し意見交換を行った際カナルオンセ側は次の3項目の追加希望をするとともに、日本側提案については合意した。追加3項目は協力を押し進める積極的なものであるため日本側はこれを了承した。また併せて、チーム側から暫定訓練プログラム案及び訓練目標案を提案し合意をみた。よってこれらの合意事項をメモランダムとしてまとめチームリーダーとカナルオンセ局長間で署名交換し、今後のプロジェクト運営時の指針とすることとした。(メモランダムの内容については後述のとおり。)
- 追加3項目
- 専門家、カウンターパート対象表
 - カナルオンセは大学に対し講義室の確保につき要請する。

。カナルオンセは(規則制機関 regulating institute)に対し日本で研修を受けたカウンターパートの定着(一定期間の拘束)に関して要請する。

(4) 文部大臣，パナマ大学長に対する表敬及び打合せ

① パナマ大学長表敬及び打合せ

(i) 日 時 3月17日(木) 11:30～12:30

(ii) 出席者

日本側 計画打合せチーム

栗屋チームリーダー

パナマ側 パナマ大学長，教養学部教授

カナルオンセ局長，副局長

② 文部大臣表敬及び打合せ

(iii) 日 時 3月17日(木)

(iv) 出席者

日本側 計画打合せチーム

栗屋チームリーダー

千田日本大使館書記官

パナマ側 文部大臣，次官

大統領補佐官

経済企画庁技術協力局長

カナルオンセ局長・副局長

③ 打合せ特記事項

両打合せにおいてチームから要請したのは，カナルオンセのみでは解決がむづかしいと思われる次の各点であり，それらに対し，文部大臣・パナマ大学長双方から積極的な回答があった。

④ チームからの要請事項

(v) 運営費 制作費，訓練経費等が不十分である。

(vi) 人事面 職員の増員があればゆとりのある訓練ができる。

訓練された人がカナルオンセに定着すれば，技術移転が有効に行なわれる。

(vii) 施設面 専門家の部屋，講義室がなく，スタジオの床張りも終了していない。

(viii) 組織面 ステアリングコミュニティを年1～2回開催し，基本的問題について話しあって欲しい。

以上につき，技術協力を1歩前進させるために，協力をいただきたい。

⑤ 学長の発言

問題点については基本的には同じ考えを持っており、また、私達の責任についても認識している。

(イ)の運営費については、この点はカナルオンセの将来へつながる問題であり、今後、具体的解決方法について考えていきたい。

(ロ)の人事面については、1番むづかしい問題であるが、別収入を得ることを考えるなど努力する必要がある。

(ハ)の施設面については、短い期間に専門家の部屋及び講義室については解決できると思う。

(ニ)については、近いうちに、ステアリングコミュニティを開いて話し合うことを約束する。

⑥ 文部大臣の発言

○ 今まで、管理の面で2つの所（文部省、パナマ大学）がしていたので問題があったが、近く、文部大臣、学長名でサインをして、カナルオンセをより身近なものとして議論をするためのコミュニティを作る。そのドキュメントはすでに作成済みである。

○ 人事面の問題についてはよくわかっており、サラリーについては大統領に会ってお願いしようと思っている。

○ ステアリングコミュニティについては、年2回は開きたいと思っている。

⑦ その他

文部大臣との打合せに出席していた経済企画庁技術協力担当補佐官は特に発言を求め次のとおり述べた。

「本件は人間形成に非常に重要であり、日本の協力を感謝している。今日の打合せで、カナルオンセの具体的問題点を認識したので、経済企画庁としても、いろいろと、協力させていただきます。」

(5) 大使館の見解

大使館への報告の際に柴田参事官、千田書記官（技術協力担当）から発言のあった本件協力に対する認識は次のとおりである。

- 日本人専門家は熱心でありパナマ側からの評価も高い。
- 現在は機材もそろい、いよいよこれから本格的訓練が開始するという段階である。
- これまでは、機材据付けを通じての訓練が相当行なわれたものと見ている。
- 先のローマ法皇来パナマの際、各テレビ局で分担して放送したが、カナルオンセの映像が最もすばらしかった。

3. 調査内容

(1) 送信所（セロ・オスクーロ）視察

セロ・オスクーロの送信所は、パナマシティ郊外の小高い丘の上であり、パナマ市内への送信という点では好位置にあるが、送信所へ至る通路は道幅が狭く、急傾斜、未舗装であり雨期の通行には困難が伴う。

早期の通路整備が望まれると共に、ジープ2台を供与機材として供与したことは、上記状況及びパナマの財政危機を考えると適正な処置であったと思われる。今後、訓練が本格化するに伴い、その有用性は一層高まるといえる。

また、先に、送信所の厚い壁をくり抜いて泥棒が侵入し、一部機材が盗難にあったため、現在では、2名の監視人が常駐としている。幸い盗難による送信への具体的影響は特になかった。

なお、施設の空調設備及び冷房設備の状況は良好である。

(2) スタジオ視察

スタジオはこれまで使われていた旧スタジオと本年1月に機材の据付けが完了した新スタジオとがある。

旧スタジオは非常に狭く、動きのある映像を撮影するには困難が伴うほどであるが、新スタジオは約230㎡あり、中南米でも有数の広さ、設備を持っており、本年1月の機材据付け後は、パナマ国内外からの視察が相次いでいる。

現在はまだ、床の整備及び壁面の防音工事を残しているが、既にリハーサル等に使用開始されており、今後の本格的訓練開始にともない、おおいにその効果を発揮するものと考えられる。

なお、現在でも電波は旧スタジオからパナマ大学校舎屋上の送信設備を経て郊外の小高い丘の上にある送信所(セロ・オスクーロ)に送られており、新旧スタジオ間の同軸ケーブルによる中継または、新スタジオからパナマ大学校舎屋上の送信設備へのマイクロによる中継を早急に検討、措置する必要がある。日本人専門家によると、昭和58年度の供与機材の中で対応を検討することである。

(3) 訓練計画

昭和56年2月11日パナマで調印されたR/D附属マスタープランでは、

- | | |
|-------------|--------------|
| I 教育テレビ番組制作 | II テレビ番組制作技術 |
| III テレビ送信技術 | IV 特殊専門技術 |

の4分野で、スタッフ訓練をセンター協力期間として定められた5年間にわたって実施するむね記述されている。

しかし、これ等の訓練と、恒常的に行なう為の供与機材の据付工事は、センター協力が始まってからほぼ2年近い57年末に完了し、本格的な運用は4月から可能になった為、残りの3年間にマスタープランに記載されている68人の訓練を完了する為には、大変なハードスケジュールを作成しなければならない。

勿論、過去2年間、必要な機材供与が順次なされた以前にも、現地の状況に応じて座学を含

めて指導がなされており、殊にスタジオへの放送設備、機材の据付けに関する技術的指導は、普通の場合にはなかなか得られない技術習得のチャンスであった。これらを考慮に入れると充分でない環境の中でかなりの程度の訓練がなされていた。特に4人の各分野の専門家による座講を含めた直接指導、放送機器相互間のシステム的な考え方の指導などにより実質的に、人によっては一応技術のトランスファー終了に近いスタッフも見受けられた。

ただこの実績は、マスタープランにうたわれている訓練人数をカウントする形にはなっていないので、(今から、後述のワーキングコミティーなどで、双方が、特定のスタッフについて訓練終了したと合意すれば、別であるが)当調査団としては、今後3年間に

- ① どういう人数的割りふりで年ごとに訓練を実施するか。
- ② 5年のセンター協力期間終了の際の到達度をどのように設定するか。
- ③ そのためにどのような訓練目標と期間を設定するのか。

について、派遣専門家と打ち合わせを行い、それをもとにして日本側案として提案し、パナマ側と協議した。その結果は前述のように、一部パナマ側提案を含む修正案の形でパナマ側と合意に達したので、メモランダムとしてこれをまとめた。

以下、訓練計画スケジュールを示すが、暫定的となっているのは、何分にも日常業務を実施している放送局であるので、派遣専門家リーダーとパナマ側経営陣が、今回定められたワーキングコミティー等を通じて、現実のコース開催、人間の選定などを、その都度協議する必要があるからである。

Training Schedule for Canal Once (Draft)

カナオンスケ訓練計画スケジュール(暫定的)

		1983	1984	1985	1986
<p>R/Dマスタープラン上の分類部門 Fields & Contents</p> <p>(Classified in R/D)</p> <p>Master Plan</p> <p>2=11 4 6 8 10 12</p>	<p>1983 →</p> <p>2=11 4 6 8 10 12</p>	<p>1984 →</p> <p>12</p>	<p>1985 →</p> <p>10 12</p>	<p>1986 →</p> <p>10 12</p>	<p>1986</p>
<p>1</p> <p>教育テレビ番組制作 Educational Television Program Production</p> <p>番組編成 Programming (4)</p> <p>番組編成の基礎を築く Building up the foundation of management</p> <p>経営基礎の養成</p>	<p>基礎的研究 Basic study</p> <p>教育番組編成方針 Compilation</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p>
<p>2</p> <p>Guidance for planning of reference broadcast materials</p> <p>Adult Education Program 一般教養番組</p> <p>(1) Cultural program 文化番組 ニュース・報道番組</p> <p>(2) News & information program 児童・生徒向け教育番組</p> <p>Education program (youth & children)</p> <p>..... → 基礎調査 Educational program</p> <p>..... → 基礎調査 Educational program</p> <p>..... → 基礎調査 Educational program</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>
<p>3</p> <p>番組制作の基礎技術育成 Development of fundamental technology of program production</p> <p>企画の提案 → 基礎調査 Planning & proposal</p> <p>構成と放送用台本 → 基礎調査 Composition & Script</p> <p>..... → 基礎調査 Composition & Script</p> <p>..... → 基礎調査 Composition & Script</p> <p>..... → 基礎調査 Composition & Script</p> <p>..... → 基礎調査 Composition & Script</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>
<p>2</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>
<p>3</p> <p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>	<p>..... → 基礎調査 Fundamental survey</p> <p>..... → 基礎調査 Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours</p>

Training Schedule for Canal Once (Draft)

Fields & Contents	Master Plan	1983 ... →	1984 ... →	1985 ... →	1986
(Classified in R/D)					
OB Production 局外中継番組制作	2=11	4	1	2	4
* Presentation of program 中継録画番組の演出					
* Presentation of live transmission program 生中継番組					
Study on the how-people speed—their time 放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)					
* Promotion of educational program utilization 利用促進等の検討・指導					
* Guidance to program publicity activity 広報対策の基本的検討					
テレビ番組制作技術 Television Studio engineering					
TV Camera work テレビカメラ (3)					
Studio Lighting 照明 (4)					
Audio Control 音声 (2)					
Video Control 映像 (1)					
VTR (including editing VTR) (6)					
Telecine Control テレシネ (7)					
Common 共通					
OB work & relay 局外中継 (5)					
Maintenance 設備保守管理 (8)					

1984 ... →

12 | 10 | 8 | 6 | 4 | 2 | 12 | 10 | 8 | 6 | 4 | 2 | 12

中継番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

放送番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

放送番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

放送番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

放送番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

放送番組の演出・録画・編集 presentation, video-tape recording & editing of simple program

短時間番組の中継録画 short-time transmission program

長時間番組の中継 long-time transmission program

生中継番組

放送番組利用促進調査 (Study on Audience Research. 教育番組の利用促進等)

利用促進等の検討・指導 guidance & deliberation of utilization promotion measures grasping the effects of publicity

広報対策の基本的検討 grasping the effects of publicity action

テレビ番組制作技術 Television Studio engineering

カメラワークの基本操作 camera work & picture composition

照明 equipment lighting basic theory

音声 映像機器構成 explanation on system system 系統の解説

基本照明 fundamental of audio control

音声がコントロールの基礎 fundamental of video control 映像コントロールの基礎

映像 (1) 映像コントロールの基礎

VTR (including editing VTR) (6)

テレシネ テレシネの周期的制作

局外中継 (5) 局外中継の解説

設備保守管理 (8) 設備保守管理

Training Schedule for Canal Once (Draft)

Fields & Contents	1983 ...>				1984 ...>				1985 ...>				1986					
	Master Plan	2=11	4	1	12	10	8	6	4	2	12	10	8	6	4	2	1	
III	テレビ送信技術 Television Transmission Engineering																	
I	Transmitter theory 放送機理論 8 F 電力増幅部 * Final Stage Power Amplifier (8F) ...				theory & mechanism fundamentals & disassembly (practical)													
2	Antenna & Radio Wave Propagation				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
3	Micro Wave マイクロ中継				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
4	TV reception 受信 電界強度測定 Electric wave intensity measurement				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
5	Maintenance 設備保守管理				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
II	共通 Basic Broadcasting 放送工学基礎理論				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
5	> Common Engineering theory * Electric physics in general 電気物理学一般				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
III	* Colour TV theory カラーテレビ理論				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
IV	Special Technique 特殊専門技術 美術デザイン (including title design) Art design Animation work 7. ニュース制作 Necessary work for special technique				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
1	美術デザイン (including title design)				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
2	Art design				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													
3	Animation work 7. ニュース制作 Necessary work for special technique				理論と分解点検 (実習) theory & circuits design													

(4) プロジェクト達成目標（暫定的）

5年間のセンター協力期間終了後の到達努力目標を及びカナルオンセ側と話し合っ
て次の如く定めた。

協力期間終了時の到達目標（暫定）

	訓練分析	内 容	第 5 年 度 末 の 到 達 目 標
I	教育テレビ 番組制作	1 番組編成	編成方針を確立し、スタッフ数と設備機器を考慮した制作管理と放送番組編成スケジュールを設定すること。
		2 一般教養番組制作	継続的な企画と提案にもとづきスタジオ番組の構成と編集が自立して出来るようになること。
		3 児童生徒向け教育番組	スペイン語版制作も一応のレベルに達すること。
		4 局外中継番組制作	少くとも単純な中継番組の演出、録画、編集が自主的に出来るようになること。
		5 放送番組利用促進、利用調査	放送における広報対策の基本的検討の後、パナマでの視聴者層の意向を出来るだけ把握して利用促進等を検討する。
II	テレビ番組制作 技術	1 カメラワーク	スタジオカメラワークの基本操作に習熟しカメラの機構の撮影基本理論を学ぶ。その結果、教養報道番組の制作が自立して出来るようにする。
		2 照 明	器具の取扱いからはじまり、スタジオ内の基本照明に習熟し中規模程度の番組制作を可能にする。
		3 音 声	音声、現像機器構成・系統の習得をはじめ、スイッチング及びコントロール実習を含めて機器運用と番組制作が自立して可能になるようにする。
		4 映 像	
		5 V T R	収録・再生・編集が自立して実施出来るようにする。
		6 テ レ シ ネ	テレシネ機器の機能・運用技術の習得。
		1～6 共 通	以上1から6迄を通じ新スタジオの統合運用に習熟する。
		7 局 外 中 継	O B Vanによる中規模の局外制作を自立的に制作出来るようにする。
8 設備保守管理	運用機器の日常の調整に習熟かつ、併せて故障箇所の発見と基礎理論にもとづく修理能力を養なう。		
III	テレビ送信技術	1 送 信 機	機器と原理に習熟し実際の送信が可能になるようにす

IV	特殊専門技術	2	アンテナ	アンテナの電波伝播理論の理解
		3	マイクロ	マイクロ中継技術 (F P U , S T L) 理論の学習と実技の習得。
		4	受信	受信原理と受信機構を学び電流強度測定が可能になるようにする。
		5	設備保守管理	送信機器の周期的点検と保守が行なえるようにする。
		1	美術・デザイン タイトル等制作	ある程度の美術デザインとアニメーションを番組制作に利用出来るようにする。
		2	アニメーション 制作	
		3	特殊技術	クロマキー技術を始めとし、ワイプ技術装置やその他の装置を使って少くとも初歩の技術がスタッフ間に波及するようにさせる。

(5) 訓練予定人数

カナルオンセは実際に放送をしている機関であり、附属教育訓練機関を持っていないのでこのセンター協力の訓練はOJT (On- the -Job Trainig) でなされているのが実情である。従って訓練の進行速度とその効果を、Off-the- Job Training の職業訓練センターのように、人数を時間数とコースの長さで明快に算出するのは難かしく又無理がある。

OJTにはOJTの特徴があり、この点については後述するが要するに日常業務の中でR/D付属のマスタープランに記されている訓練分野の内容をウエイトをつけてテクノロジートランスファーを図っていくのが実情である。このような実情の中で職業訓練センターと同質の訓練コースは設定しえないが、在パナマ派遣専門家と打合せの上、1) の訓練計画によるコースの設定、2) のプロジェクト目標 (暫定的) を作る、これを実施段階では、カナルオンセ側と協議の上、対象者を定め、日常業務の中で、出来るだけコースの内容を実現するような工夫をしていくこととした。

また、スタジオ機械の据付け以前にも、従来の設備を使って研修を実施したが今回の調査団派遣の際、専門家側は、これらの研修により訓練済みスタッフとして考えてもよい場合もありうるが、新スタジオ運用開始前でもあるので、R/D上の訓練対象人数からは一応外して考え、83年以降の3年間で算出することにしたいとの意思表示があった。

このような考え方でテクノロジートランスファーを図っていくわけであるが、何をもって研修を終了と認定するかについては、今後、早急に、専門家側で、対象者の質を考慮して、必要なコースの組み合わせによる基準設定をし、これにより研修終了者を算出していくことになった

が、現在の時点で、センター協力期間終了予定の1985年迄の訓練予定は下の通りである。

訓練予定人数

年度 4分野	1983	1984 { 1985	計
番組	5	8	13
スタジオ技術	10	31	41
送信技術	2	3	5
特殊技術	3	6	9
計	20	48	68

訓練予定人数について特に付言しておきたいのは、R/Dマスタープランに記載されている人間の数は、延人数であるということである。第一にR/D署名当時の訓練予定人数は68人であるが、当時の局員総数は48人であるし、一面スタッフ数の増加を予定したとの見方もあるが、少数の増加はとも角として大量の増加はパナマの放送量の現実からして不可能である。第二に、たとえば、特殊効果にしても9人をR/Dでは予定しているが、これは、48人の局員数から考えるとバランス上多すぎる数である。したがって、訓練されるスタッフ側からいえば、4つの訓練分野及びそのサブ分類の中の項目分野で複数の項目の訓練を受けることもあり、それ等も積み重ねて人数を計算していると考えらるべきである。R/Dにはただ数だけ記されているので時間がたつと誤解されるおそれもあるため、特に記しておきたい。

(6) カウンターパートの現状

1) 対象としてのカウンターパート

日本人専門家の技術指導の対象者たるカウンターパートの人数については、プロジェクト成立時明確化されていなかった。R/D付属マスタープラン上にある予定訓練者数としては、教育番組制作分野13名、スタジオ技術分野41名、送信技術分野5名、特殊技術(美術)9名の計68名となっている。また、専門家派遣に係るパナマ側の要請書(A4フォーム)によれば、パナマ側は専門家受入れにあたり、そのカウンターパートとして、チーフ・アドバイザーには、カナルオンセ局長を、番組制作専門家には、パ側の番組制作部長を、スタジオ技術及び送信技術の各専門家には、パ側の技術部をあてるとあるので、少くも4名のカウンターパートは配置されていたといえる。

しかしながら、本プロジェクトの開始以来、上記のような分野分けをした形で推移して来たため、各専門家のカウンターパートとして特定されてはいても、これらのカウンターパー

トの本来業務の多忙に加え、流動的人事、局全体の職員の出入りの激しさのために、カウンターパートへの、及びカウンターパートを通しての技術移転に困難を来たしていた。

そこで、今回の計画打合せチーム派遣を機会に技術協力プロジェクトではカウンターパートへの技術移転が重要であることを「パ」側に力説し、現状を踏まえて次のような方策により、カウンターパートへの技術移転を計ることとしたのである。

- ① カナルオンセ局の組織上の各技術部門と、派遣専門家分野が同一である事に留意し、各部長を専門家のカウンターパートとする。

具体的には次のようになった。

栗屋専門家（リーダー） — カナルオンセ局長
〃 番組編成部長

相沢専門家（教育テレビ番組制作）— 編成部長

富森専門家（テレビ番組制作技術）— 技術部長

緒方専門家（テレビ送信技術） — 技術操作部長

- ② 但し、これらのカウンターパートは、原則として1人である上に、部長職という激務であるので非常に多忙であり、専門家に張りついて技術移転を期待するのに無理がある。よって、日本人専門家に対応するカウンターパートを複数のグループとし、これらカウンターパートグループと各グループの長を職責上責任ある地位にいる前述の部長とする。

この提案に対し、「パ」側も全面的に賛成した結果、下記の通りのカウンターパート配置と決定された。

- | | |
|------------------------|---|
| ① 栗屋専門家
（リーダー総括） | 1. 局長
2. 副局長 |
| ② 相沢専門家
（教育テレビ番組制作） | 1. 制作部長
2. 〃 副部長
3. 報道番組部長
4. 制作部員
5. 〃 |
| ③ 富森専門家
（テレビ番組制作技術） | 1. 技術部長
2. 運用副部長
3. 運用部員
4. 〃 |
| ④ 緒方専門家
（テレビ送信技術） | 1. 技術部長
2. 運用部員
3. 〃 |

尚、R/D上訓練部門の一つである特殊専門技術分野の特定カウンターパートは存在しない。

何故ならば、特殊専門技術は分野が広いので、一人の専門家による対応は不可能に近く、このため数名の短期専門家派遣により対処することになったからである。

以上のように整理されたので、今後日本での研修受入れも、これらカウンターパートグループから優先的に人選されることになり、技術移転の対象であるカウンターパートを特定化することが出来、協力が一層やりやすくなったのである。

このように整理はされたが、過去カナルオンセ局の職員の退職による交代が非常に激しく（1980年事前チーム派遣時48名の職員中、現在迄に転出したのは24名で、転出率は50%である。）、当然カウンターパート及び訓練生への技術移転に影響が出て来ているので、今後は、将来カウンターパートの転出のないように、その拘束期間を、少くも本プロジェクトR/D上の協力期間中とするよう申し入れた。これに対し、「パ」側は、日本側の主張はもっともであるし、特に日本に研修参加したカウンターパートである職員が研修終了し帰国後退職することのないように、今以上厳しく拘束出来るよう公務員の拘束期間に関する法令規制関係当局へ照会中であると説明した。

尚これらR/D上の予定訓練職員数全員が、カウンターパートとなるのではなく、その一部の中心的グループがカウンターパートとなるのである。

2) 日本研修参加したカウンターパート

(7) 供与機材

日本政府の供与機材リストについては、中継車を除いては、殆んどの機材（約3億8千万円）が送られており、新スタジオへの設置がほぼ完了した。それらは、①UHF送信機、②カラーテレビスタジオ装置、③屋外取材用車、④測定機器で構成されている。これらの機材、装置は現在調整中であり、数ヶ月内に予定されている新スタジオの運用開始をまって、カウンターパートの訓練に多大の効果を発揮するものとみられる。従って本格的稼働はこれからである。

調査団の訪中、派遣専門家側から、これらの機材の補充を含めて、テクノロジー・トランスファーを円滑にするために必要な追加機材のリストが示された。中継車の供与時期を含めて、これ等の機材を供与するかどうかは、日本側で検討することとなった。

希望供与機材リスト（優先順位）

- | | |
|----------------------------|----|
| 1. 番組送出用短距離S T L又は多重端末装置 | 1式 |
| 2. F P U受信基地連絡用小電力マイクロ中継装置 | 1式 |
| 3. TC/VTR室機器リモコン機能追加 | 1式 |
| 4. U'MATIC VTR システム | 2式 |
| 5. F S S 装置 | 1式 |

- | | |
|------------------------------|-----|
| 6. 特殊効果，アニメーション用グラフィックディスプレイ | 1 式 |
| 7. インコムヘッドセット用延長ケーブル | 5 本 |
| 8. 照明調光制御用プリント基板 | 2 個 |
| 9. アルファベット文字信号発生装置 | 1 式 |

(8) 建物の状況

カナルオンセの建物は、別添資図面にあるとおり、各部屋は新設のスタジオを除くと皆狭く、おまけにパナマ大学の視聴覚実験研究グループが、2階部分の半分を占めて同居しているため、見たところ雑然としている。

リーダーの個室もなく、副局長と同居しており、机2つで一杯となっている程で、ソファを置くスペースもない。他の専門家も、各仕事場を常駐場所としており、専門家のための部屋（個室はもとより大部屋もない）はない。また教室もなく、座学的なことは、スタジオの隅とか、時間のやりくりをして、他のスタッフがいないときに各の仕事部屋でカウンターパートへ教えている。

このような、専門家の部屋及び講義室の不備等施設面での問題点は、当チームと文部大臣との打合せ及びパナマ大学学長との打合せのそれぞれにおいて、改善方強く要請し、前向きな回答を得た。

Ⅲ 覚書について

覚書成立の経緯・主旨については前述（Ⅱ打合せ・調査内容、1.概要）のとおりであるが、覚書の内容の主眼点は次の通りである。

1) 訓練計画

従来あいまいであったR/D上の技術協力対象4分野についての技術指導計画を作成し、運営委員会（Steering Committee）へ提出させる事により、技術協力プロジェクトの内容をより明確にした。

更に4部門各コース毎の訓練計画実施に先立ち、その簡単な実施要領の作成及びこれの関係者間への配布を義務づけることにより、当該コース参加者への目的意識を明確にした。

2) 訓練参加者準備

カナルオンセ局では日常の業務をする一方で、これら訓練プログラムに参加する事となる。よって、

㊦ 日常勤務時間帯ではあるが、訓練コースへの参加者がコースへ参加しやすいようにした。

㊧ R/D上訓練予定人数はTechnical Staff 68名と明記されているが、現カナルオンセの人数は50数名であるので、早急に局の増員を行う事。及び毎年及び残る3年間に訓練される必要数を双方で緊急に協議の上決定する事。

これの日本側案を決定したので（別添参照）、近く栗屋リーダーから「パ」側に提案し、確定することとなる。

3) 日本人専門家

カナルオンセ局内でのOn-the-job trainingに埋没し、単なる役務提供者として相手国の不足、人員補充案とならぬよう、技術指導の目的で派遣され、それを実行するのはパナマ側カウンターパートへの技術上の指導と助言によるものであることを明記し、且つ今後のための日本人専門家グループとカナルオンセ幹部との関係を組織図上に明記した。

4) カウンターパート

カウンターパートこそは日本人専門家からの技術移転の受皿となる本プロジェクトにとり、主要な役割を果す者である事を明記の上、この目的達成のため、カウンターパートの適正配置、技術指導4分野毎にカウンターパートグループとし数名づゝ配置すること。

（このグループ長はカナルオンセ局各部長がなること）これらの中心的カウンターパートグループは、原則として関連訓練全コースに出席する事とした。又パナマ側の提案に基き、カウンターパートは特定した。

5) 日本への研修

㊨ 日本研修参加者は、カウンターパートグループが優先すること。

⑥ 日本研修終了者の転職が容易に起らぬよう、少くもプロジェクト期間中は効果的な、何等かの手段をとる事。

⑦ 「パ」側は更に、⑥の転職が起らぬように、日本研修参加者への法的整備（一種の bond の強化）を考慮する事を明記した。

6) 機材

⑧ 機材は1983年供与予定の中継車、その他の小物を除く全て供与済なる事。

⑨ プロジェクト実施上必要なスペアパーツ、その他の材料はパ側の購入となる事。

⑩ ⑧ 全機材を機材台帳に記帳する事。

⑪ 機材の保守管理を良くするため、機材カードを作成すること。

7) 予算の支出

迅速で時機にかなった支出ある事。（精神的規定でしかない）

8) 建物・場所の準備

⑫ 日本人専門家のための部屋を用意すること。

⑬ カナルオンセはこのための1983年予算要求をすること。

⑭ 大学当局に、講議用部屋を確保するよう要求する。

9) Steering Committee

⑮ 運営委員会を数多く開く事。

⑯ 当該年度及び残存3年間の訓練計画を本委員会に提出すること。

⑰ 現行Steering Committeeの開催がメンバーの都合で容易でないこと。又訓練コースの立案等は実務レベルでなされる事と考えられるので、Steering Committeeは基本方針についての討議をしてもらい、別にWorking Committee（作業委員会）を作り、こちらで事務的だが事実上プロジェクトの一般運営に必要な事を討議決定して行く事の出来るように提案する。

10) Working Committee

Steering Committeeが機能していない現状と現プロジェクトが進行中の事を考慮し、本プロジェクトが円滑に進展し得るようになるためにこの機関を設置することで合意をみた。

⑱ (機能)

本プロジェクトに関する如何なる議題も、双方の提案により議題としてとりあげ討議し得る事、但し本R/Dの枠内での問題解決を計るべき審議機関なること。

⑲ 開催は毎月1回の定例会議の外、双方の同意で何時にても開けるものとする。

⑳ 機成：日本側：日本人専門家（含チーフアドバイザー）

パナマ側：カナルオンセ局の局長、次長、5人の部長その他カナルオンセ局が必要とする局員。

IV 今後の問題点

今回の覚書を双方が遵守履行すれば、現在本プロジェクトの抱えている問題点は大方解決されよう。

更に残るものとしては次のようなものがある。

- 1) カナルオンセ局が組織上文部省とパナマ大学双方の組織の一部となっている二重構造から来る（指揮系統二分化）プロジェクト運営上の問題点。
- 2) パナマ国財政事情悪化に起因するカナルオンセ局運営予算の増加が難しい事。
- 3) 本件協力が従来 of 職業訓練方式の訓練と異なり、On-the-job training を中心として行なわれているために、その協力成果の測定方法につき、いくつかの見解があり一つに固まっていな

い。

この問題は、本プロジェクトの将来の評価チーム派遣時に何をもって評価するかという評価の基準に係わる事となるので来年の巡回指導チーム派遣時迄に本問題を解決しておく必要があると思料される。

V 放送分野における海外センター協力事業について

1. 実際に、1つの番組を作るにあたっては、プロデューサー、プログラムディレクターを初めとする演出部門の人間、テクニカルディレクター、スイッチャーを初めとする技術部門の人間、デザイナーを初めとする美術部門の人間そして出演者と多くの人間が参加する。そして、これらの各部門の人間の作業は別個独立の作業として完結するわけではなく、それらが、どれだけうまく組み合わせられるかによって番組のでき、ふできが決まってくる。(電話のように、例えば、交換なら交換に関するさまざまな知識・技術をマスターすれば、その交換という部分においては、十分に意味を持つという内容のものではない。)

よって、放送分野の訓練においては、養成しなければならない要員の数が多くて、一般の訓練校方式をとらざるをえない時は仕方がないが、できる限り、オンザジョブトレーニング方式による訓練を行うことが有効である。もちろん、このことはオンザジョブトレーニングのみを行うということではなく、必要なオフザジョブトレーニングが行なわれていることを前提とするものである。

2. 海外センター協力事業において、オンザジョブトレーニングを中心とした訓練を行う場合の問題点としてオンザジョブトレーニングの評価方法が定っていないということがある。

これまでの海外センター協力事業は、訓練センター方式がその典型である。そして、そのような状況のもとでかたちづくられてきた評価方法は、日本人専門家の判断を基礎資料とする“カウンターパートの成長度”，実施訓練コース数，訓練時間数，受講者数等客観的数字を基礎資料とする“訓練実績”の2本柱からなっている。この方法は、現地の状況を十分に把握している専門家の判断と客観的な数字を組み合わせた方法であり、非常に有効な方法といえ、また、訓練センター方式の海外センター協力事業には合致した方法である。

しかし、放送分野のオンザジョブトレーニング(OJT)においては、通常は各項目ごとに細分化された訓練コースを設定して行なわれるものではなく、総合的な訓練という形で行なわれているものである。従って通常の学校形式的訓練センターを前提とした評価方法を、このOJTを主とするプロジェクトに適用するのには無理があるといえよう。

3. 海外協力センター事業の目的は、カウンターパートに対する技術移転にあり、評価の基本となるものがカウンターパートの成長度であることはまちがいない。訓練センター方式の評価も、このことは前提とし、専門家によるカウンターパートの成長度の判断を重視したうえで、それのみでは主観に陥る恐れがあるので、それをサポートするものとしての実施訓練時間数などの客観的な数字も利用するのである。

となれば、放送分野のオンザジョブトレーニングの評価のために考えられる数字としては、試作番組の数、放送番組の数も一案として考えられるのである。本プロジェクトも後半に入り、数

年後にはプロジェクトの評価が行なわれることとなるのであるから、それまでに、本プロジェクトの評価方法及び評価基準について、今から充分検討しておく必要があるといえよう。

VI 結 論

まとめ

今回の打合せチームの派遣により、今後の訓練計画が策定されるなど残る協力期間における協力のあり方について一定の整理が行なわれた。

また、日本側が専門家の派遣、研修生の受入れ、機材の供与等まほR/Dに沿って実施しているのに対し、パナマ側の対応の遅れがあるとの認識をパナマ側に持たせることができた。

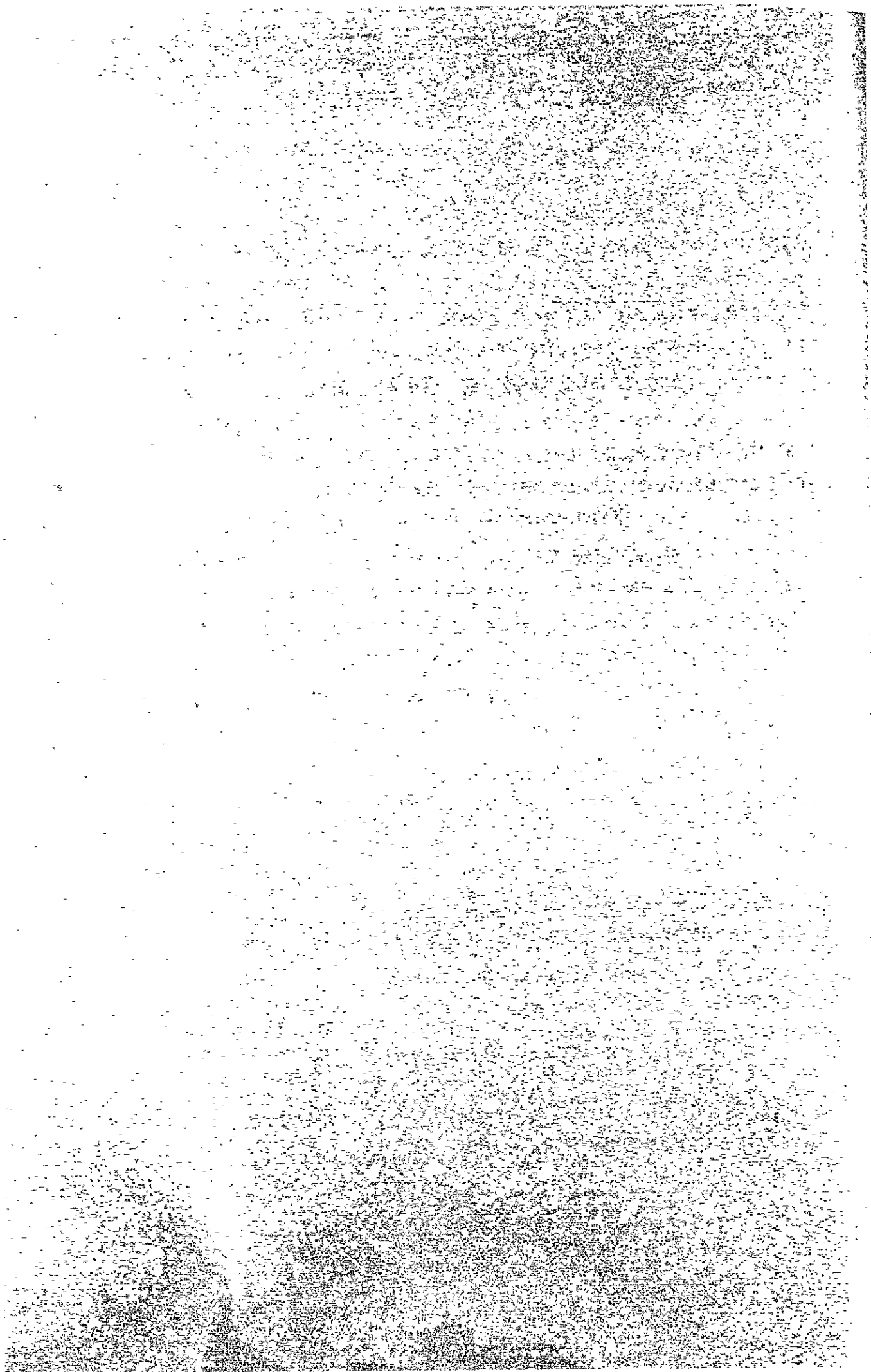
今回の派遣でわかったことは、本件協力に対するパナマ側からの評価が高いこと、カナルオンセはカナルオンセなりに協力促進に努力していることである。

カナルオンセの現状は、機材据え付けがすべて完了しこれから本格的な訓練が行なわれる段階であり、また、組織的にもカナルオンセの自主性を認めようとの動きが進んでおり、今後の協力の進行が期待される。

なお、本件は、従来多くみられたオフザジョブトレーニングである職訓方式のセンタープロジェクト協力と異り、実際に放送業務を行っている放送局に対するオンザジョブトレーニングである。放送分野の訓練は各項目の訓練が統合されて成立するものであり、オンザジョブトレーニングの重要性が高いといえるが、協力の成果、技術移転の評価をどのような形で行うかについてはむづかしい問題があり、この点については今後、検討していく必要がある。

付 属 資 料 1

Memorandum 英文 (正本) , 西文, 和文訳



MEMORANDUM

BETWEEN

The Japanese Mutual Consultation Team organized by the Japan International Cooperation Agency, which visited the Republic of Panama from March 12 to March 19, 1983

AND

CANAL ONCE,

The Panama National Educational Television Broadcasting Project

I. TRAINING PROGRAM

- (1) Basing upon the present Master Plan (Four objective fields of training) and the Five Year Plan of Technical Cooperation and its yearly Targets, attached to the Record of Discussion signed on February, 11 1981, Training Program of the Four Fields (a. Educational Television Program Production, b. Television Studio Engineering, c. Television Transmission Engineering, d. Special Technique), shall be made out and these programs shall be presented to the Steering Committee.
- (2) For each four fields of the technical staff training mentioned above, Brief Course Description of the course which will be opened within the period of the fiscal year shall be made out and these papers shall be distributed among the parties concerned (Director General of Canal Once, Vice Director General, Five Chiefs of Unidades, some staffs who join the training course and Japanese Experts).

Example of Brief Course Description

- | | |
|--|-----------------------|
| (1) Course Title | (2) For whom |
| (3) Course Duration | |
| (4) Number of Trainees | (Course Participants) |
| (5) Qualification level of Course Participants | |
| (6) Course objective | |
| (7) Course Content | |
| (8) Others | |

- (3) For each four fields of technical cooperation (preferably for every course of each field, level of target to be attained at the end of the course shall be clarified.
- (4) In making out any training program (fieldwise and coursewise) items undermentioned shall be clarified.

- (1) *Time of opening the course*
- (2) *Period of training course*
- (3) *Number of training participants*
- (4) *Others*

II. ARRANGEMENT FOR TRAINING PARTICIPANT

Since all the expected participants to the training are the technical staffs of Canal Once they have to participate in the training course through their daily duty. This means that under the present circumstances it is rather hard to conduct the training systematically with prearranged time.

PROPOSAL

In order to dissolve the above mentioned difficulty and to conduct the training course more effectively;

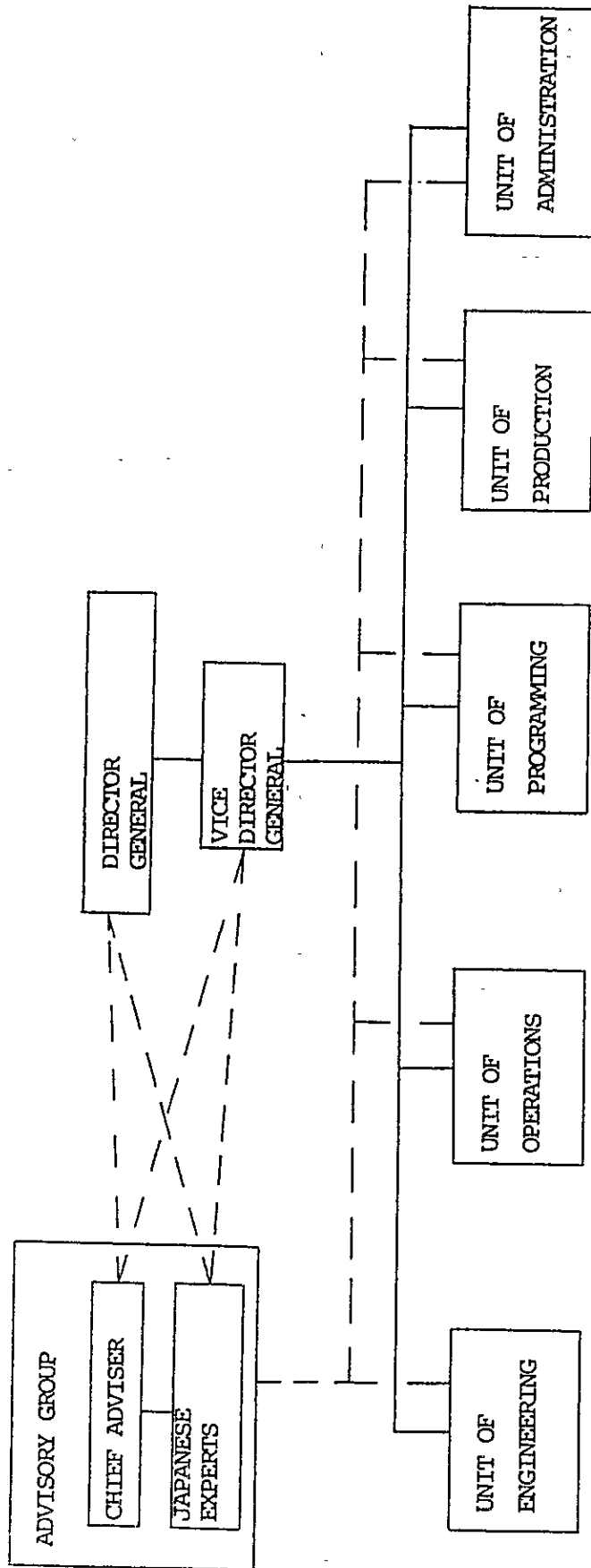
- (1) Training participant shall be admitted to attend the training course - theory and practice - as a part of their daily work.
- (2) Since both theory and practice training need more preparation - pre-study and review - on the part of participants they shall be admitted to take their self study time during their working hours.
- (3) Total figures to be trained in the four specified field are counted as 68 according to the Master Plan. At this middle stage of the cooperation - the third year of the project period, necessary figures to be trained yearly and during the remaining three years shall be fixed as soon as possible after consultations between both parties concerned.

- (4) *Since the number to be trained is 68 it is definitely necessary to increase the present number of 48 employees of Canal Once. The sooner the increase of the employee, the faster the training participant will be lessened from their daily work for more concentration on their participation to the training course.*

III. JAPANESE EXPERT

- (1) *Japanese experts are expected to give technical advice and guidance to the Panamanian counterparts. They give principally technical instructions and advice with an objective of transferring technical efficiency with regards to particular projects which are listed in the four fields of Master Plan of the present Record of Discussions, but they are not ultimately responsible for implementation and administration of these projects.*
- (2) *The relationship between Japanese Advisory Group and Panamanian staffs concerned is shown in the attached paper.*

ORGANIZATION CHART



IV COUNTERPART

- (1) Counterpart is the technical staffs arranged by the recipient countries to accept the transfer of technology from Japanese expert despatched to the project.
- (2) IN order to carry out technological transfer effectively it is necessary to grow up the core leaders, by whom further transfer can be realized to other trainees.

Even if the Japanese experts give direct training to the trainees in general unspecified, the period they can give training is only a few years, therefore, for the betterment of the project and some good effect would remain longer they are rather expected to give technical guidance and advice to their counterpart who have already some extent of skill or technique so that some core technician or technologist will be produced and further developed in each specified fields corresponding to Japanese expert.

PROPOSAL

- (1) Proper disposition of counterpart who will be keyman to accept technological transfer from Japanese expert.
- (2) Since the objective fields of this technical cooperation are the four fields specified in the Master Plan of the present Record of Discussions, some counterpart group shall be arranged in these four fields undermentioned.

- a. Educational Television Program Production
 - b. Television Studio Engineering
 - c. Television Transmission Engineering
 - d. Special Technique
- (3) Chief of Unidades of Canal Once will be the head counterpart in each four fields in the Master Plan and they will be linked to Japanese experts as the chief of counterpart group in each field. This means that there are about a few counterpart - around three - in each field, head of which is the chief of Unidades and corresponding to them some Japanese experts have been despatched.
- (4) Therefore, these core counterparts are included among Canal Once Technical staffs to be trained
- (5) Japanese experts shall give technical advice and guidance to the counterparts disposed in each specified field and they shall consult with their counterpart concerning the training program, training contents and training method in which they are involved.
- (6) Since the core counterpart in each four fields are the keyman of technological transfer they shall attend all the courses in the specified field. Considering the heavy duty, the chief of Unidades of Canal Once is hopeful to attend as many courses as possible.

In accordance with the record of discussion agreed upon, by the Government of Panama and Japan, in the Television technical assistance, the appointment of counterparts by the Education Television was designated, with the purpose of conceiving the knowledge imparted by the Japanese Experts, send for that purpose.

The following is a list of the personal nominated as counterpart of the Japanese Experts.

DEPARTMENT	ADVISOR	COUNTERPART	GROUP LEADER
Direction	Atsushi Awaya	Itzel de Cortés Julio Barba	Itzel de Cortés
Educational Television Program Production	Masaharu Aizawa	Luis Prescott Esmeralda Sepúlveda. Vilma de García Marina de Vargas Vielka de Avila Rosalina Pinzón	Luis Prescott
Television Estudio Engineering	Shigeru Tomimori	Manuel Reyes Alejandro Carrasco. José Luis Lasso De La Vega.	Manuel Reyes
Television Transmis- sion Engineering	Koretaka Ogata	Alejandro Carrasco. José Luis Lasso De La Vega.	Alejandro Carrasco.

V. TRAINING PARTICIPANT TO JAPAN

- (1) Participant to training course in Japan shall be selected firstly from core counterpart group.
- (2) Participant to Japan shall be selected from those technical staffs under training after the selection from counterpart group is over.
- (3) Some effective measures shall be taken to secure the employment of the counterpart personnel who study in Japan at least the remaining period of the project.
- (4) Request a legal document, from the regulating institutions, that will oblige all the panamanian trainees, benefitted by the Japanese scholarship program, to correspond in proportion to the period given to impart the knowledge obtained through the technology transfer.

VI. EQUIPMENT

- (1) All the machinery and equipment for the implementation of the project have been provided and installed except the OB VAN and other minor items to be provided in 1983.
- (2) Spare parts and other materials necessary for the implementation of the project should be in principle provided by Pnamanian side.
- (3) Management and maintenance of equipment.
 - (1) All equipment shall be booked into the equipment ledger book.
 - (2) Maintenance card shall be made up for each big equipment so that record of repair and maintenance of it shall be kept in order.

VII. RELEASE OF BUDGET

Speedy and timely release of the budget is expected for smooth and effective running of the project.

VIII. ARRANGEMENT FOR BUILDING AND ROOM

At present there is no room for Japanese experts where they can prepare their lecture, make up teaching materials and give lecture.

PROPOSAL

In order to dissolve the above mentioned difficulty and continue training course more effectively;

- (1) Construction work of including interior of the building and installation of facilities to be borne by the Panamanian side shall be completed as soon as possible.*
- (2) Some room shall be kept for Japanese expert for speedy and effective running of the training there.*
- (3) Canal Once will oblige in requesting a budget in the month of July 1983, to construct a working room, that can be utilized by the advisors.*
- (4) Request a lecture room in the University for the purpose of executing the training program for the personal. It is necessary that this lecture room be located in the same building where the installations of the Television Station are, or at least as close as possible.*

IX. STEERING COMMITTEE

- (1) *Steering Committee based on the present Record of Discussions shall be convened as many times as possible.*
- (2) *Training program of the year and for the remaining three years shall be submitted to the Steering Committee.*
- (3) *Composition of the Committee*

At present the committee consists of 7 Panamanian and only one Japanese (Chief Adviser), which shows a remarkable unbalance. Adding to this some of the Panamanian members are so high ranked officers. Their participation in formulating and evaluating basic policy of the project will be very meaningful, but program planning of training course seems to be too minor work for them.

Therefore, it is quite advisable to establish a working Committee for discussions and making out those program planning and curriculum of training course, theoretical and practical. Beside this, this working Committee can also work as an organ to run the project in speedy and effective way.

X. WORKING COMMITTEE

(1) *Composition of the committee*

(1) *Panamanian side*

Director General of Canal Once

Vice Director General of Canal Once

Five chiefs of Unidad of Canal Once

Other necessary staff from Canal Once

(2) *Japanese side*

Chief Adviser

Experts

2. *Function*

The purpose of the Working Committee is to discuss any agenda concerning the project proposed from both parties concerned and try to sort out or make out any solution or settling draft within the framework of the present Record of Discussions for smooth and effective running of the project.

3. *Time of convocation.*

Working committee shall convene monthly and if necessary it can convene at any time with the consent of both parties concerned.

In accordance with the proposals presented by the Mutual Consultation Team, for the Japanese Cooperation to Canal Once, the Panama National Educational Television Broadcasting Project:

Canal Once and the Japanese mutual Consultation team agreed in accepting such proposals, to be implemented and made effective, once this memorandum is signed by both parties.

Panama March 18, 1983

Hiromi Kamba

Mr. Hiromi Kamba
Head of the Japanese
Mutual Consultation
Team.

Itzel V. de Cortés

Itzel V. de Cortés
General Director of
Canal Once

国際協力事業団が組織し、1983年3月12日から同月19日迄 パナマ共和国を訪問
した日本計画打合せチームとカナルオンセ局、パナマ国営教育テレビ放送計画 間の
覚 書 (和 訳)

〔I〕 訓練計画

- (1) 1981年2月11日署名成立した現行R/D付属のMaster Plan及びFive Year Plan of Technical Cooperation and Its Yearly Targetsに基く、協力対象4分野の訓練計画を作成の上 Steering Committeeへ提出すること。

これら4分野とは、下記のものである。

- a. 教育テレビ番組制作
- b. テレビスタジオ技術
- c. テレビ送信技術
- d. 特殊技術

- (2) 前項にある4分野のテクニカルスタッフの訓練のため、当該年度内開設予定コースの Brief Course Description (コース概要)を作成の上、関係者間に配布しておくこと。

関係者とは、右の者である。

{	カナルオンセ局局长
	" 次長
	" 部長 (5人)
	" の関係スタッフ

日本人専門家

コース概要参考例

①コース名 ②対象者 ③コース期間 ④訓練者数(コース参加者) ⑤コース参加者の資格要件 ⑥コースの目的 ⑦コースの内容 ⑧その他

- (3) 技術協力対象の4分野毎に(出来れば、各分野の各コース毎に)、コース終了時における達成目標レベルを明確にしておくこと。

- (4) 訓練計画を作成する場合には、(分野別、コース別共に)下記項目を明確にしておくこと。

- ① コース開設の時期
- ② 訓練コースの期間
- ③ 訓練参加者数
- ④ その他

〔II〕 訓練参加者のための準備

訓練への参加予定者は全員カナルオンセ局のテクニカル・スタッフであるが、これ等の者は日

常業務のかたわら訓練コースに参加せねばならない。このことは、現状では、訓練を、時間的に事前に決めて組織的に行うことを難かしくしている。

提案

前述の難点を解消するため且つ訓練コースをより効果的に実施するため、

- (1) 訓練参加者は、訓練コース（理論及び実技）への参加が、その日常勤務の一部として認められること。
- (2) 理論及び実技の訓練は、共により一層の準備（予習と復習）が訓練参加者に要求されるので、訓練参加者は、その勤務時間中に、自習の時間が認められること。
- (3) マスタープランによれば、4分野での訓練者総数は68名となっている。

本協力プロジェクト期間の第3年目に当り、年間及び残る3年間に訓練されるべき数は双方当事者間の協議により可適的速やかに決定されること。

- (4) 訓練される数は68人であるので、現在のカナルオンセ従業員数48人を増員させることが必要不可欠である。

カナルオンセ従業員数の増員が早ければ早い程訓練参加者は日常業務作業量が減り、訓練コースへの参加により意識を集中させる事が出来よう。

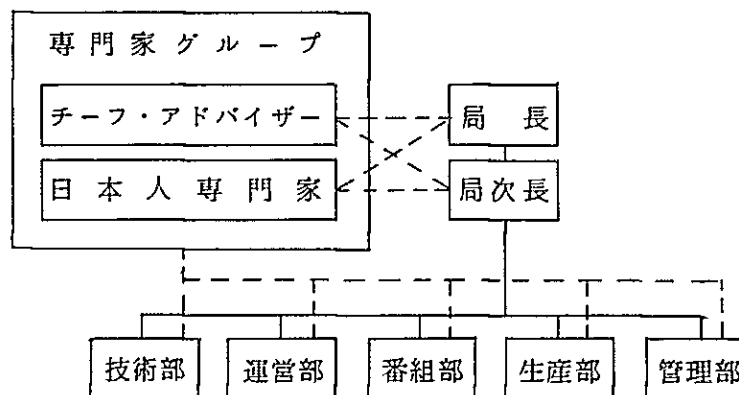
〔Ⅲ〕日本人専門家

1. 日本人専門家は、パナマ人カウンターパートに対し、技術上の助言・指導を与えることが期待されている。

日本人専門家は、原則として現行R/Dのマスタープランに列記されている4分野各指定の計画に関連し、技術上の効率性を移転する目的で、技術上の助言・指導を与えるものであるが、これら計画の実施及び管理につき最終的な責任を持つものではない。

2. 日本人アドバイザーグループとパナマ側スタッフとの関係は別添組織図のとおりである。

別 添 組 織 図



〔IV〕 カウンターパート

1. カウンターパートとは受入国が当該プロジェクトへ派遣された日本人専門家から技術移転を受入れるため配置したテクニカル・スタッフのことである。
2. 技術移転を効果的に行なうため、より一層の移転が他の訓練生になされるよう中核的指導者を育てる事が必要である。

日本人専門家が不特定の一般訓練生に直接訓練したとしても、その訓練し得る期間は僅か数年間である。

従って、本プロジェクトの改善及び何等かの好影響がより長くプロジェクトに残るためには、日本人専門家に対応する各特定分野に、幾人かの中心的技能者若しくは技術者が生まれ、更に一層（技能・技術的）発展があるように、或程度技能・技術を既に持っているカウンターパートに対して技術上の助言と指導を与える事こそむしろ期待されているのである。

提案

1. 日本人専門家から技術移転を受入れるための中心的人物となるカウンターパートの適正配置。
2. 本技術協力の対象分野は現行R/Dのマスタープランに特定された4分野であるが、下記のこれら4分野に幾人かのカウンターパートグループが配置されること。
 - a. 教育テレビ番組制作
 - b. テレビスタジオ技術
 - c. テレビ送信技術
 - d. 特殊技術
3. カナルオンセ局の各部長はマスタープラン上の各4分野のカウンターパートの長であり、且つ各分野のカウンターパートグループの長として日本人専門家に対応するものである。

このことは、各分野毎に、数名の一約3名の一カウンターパートがおり、その長が（カナルオンセ局の）部長であり、これらに対応するものとして日本人専門家が派遣されているという事である。
4. 従って、これらのカウンターパートは、カナルオンセ局の訓練されるべきテクニカルスタッフの中に含まれていることになる。
5. 日本人専門家は、各特定分野に配置されているカウンターパートに対し、技術上の助言と指導を与えるものである。

又、日本人専門家は、本人の関与する訓練計画、訓練内容、及び訓練方法につき、そのカウンターパートと相談するものとする。
6. 各4分野における中核的カウンターパートは、技術移転の中核的人間となるので、これらのカウンターパートは特定分野の全コースに出席するものとする。

業務多忙であることを考慮し、カナルオンセ局各部長は可能な限り多くのコースに出席することが望ましい。

パナマ政府と日本政府間で合意をみたテレビ技術援助に関する合意議事録に従い、技術移転の目的で派遣された日本人専門家から知識を受入れるために、カナルオンセ局によるカウンターパートの指名が行なわれた。

下記は、日本人専門家カウンターパート指名者一覧表である。

部門	アドバイザー	カウンターパート	グループリーダー
指揮監督	栗屋 淳	Itzel de Cortés Julio Barba	Itzel de Cortés
教育テレビ 番組制作	相沢雅春	Luis Prescott Esmeralda Sepúlveda Vilma de Vargas Vielka de Auila Rosalina Finzón	Luis Prescott
テレビスタジオ 技術	畠森 茂	Manuel Reyes Alejandro Carrasco José Luis Lasso de La Vega	Manuel Reyes
テレビ 送信技術	緒方惟孝	Alejandro Carrasco José Luis Lasso de La Vega	

[V] 日本への研修生

1. 日本での研修コース参加者は、最初は中心的カウンターパートグループより選抜されること。
2. 日本への参加者は、カウンターパートグループからの選抜が終了後は、訓練中のテクニカルスタッフから選抜するものとする。
3. 日本での研修を受けたカウンターパートは、少くもプロジェクトの残存期間は雇傭関係が継続するよう何等かの有効手段がとられること。
4. 日本での研修プログラムにより利益を受けた全てのパナマ人訓練生は、与えられた期間（日本研修参加）に比例して、技術移転を通じ取得した知識を他に分け与えることを義務づけるように規制機関に法的書類（契約等の意）を要請する。

〔VI〕 機材

1. 1983年度供与予定のOBVan（中継車）及びその他の少項目機材を除く本プロジェクト遂行のための全ての機材類は供与され且つ据付が完了した。
2. 本プロジェクト実施に必要なスペアパーツ及びその他の材料は、原則として、パナマ側が供給するものであること。
3. 機材の維持管理
 - (1) 全機材は機材台帳に記帳されること。
 - (2) 修理・保守の記録が適正になされるよう、大型機材毎に保守管理カードが作作用意されること。

〔VII〕 予算の支出

予算の迅速且つ適宜の支出が本プロジェクトの円滑で効果的運営のために期待される。

〔VIII〕 建物及び部屋の準備

現在のところ、日本人専門家が講義を準備し、教材を作成し、且つ講義を行う場所がない。

提案

上記困難の解決及び訓練コースをより効果的に行うために、

1. パナマ側の負担で行うこととなっている建物の内装及び設備の取付けを含む建設は、可及的速やかに完了される事。
2. 日本人専門家の迅速で且つ効果的な訓練実施のため、何等かの場所が用意されること。
3. カナルオンセ局は、日本人専門家達の使用する作業部屋を建設することを1983年7月の予算要求で行うものとする。
4. スタッフの訓練計画実行のため、大学内に講義室（一室）を要請すること。

この講義室は、現在のテレビスタジオのある同一建物内か、或いは少くも、これに出来る限り接近した場所に位置するものであること。

〔IX〕 運営委員会

1. 現行R/Dに基づく運営委員会は、可能な限り、数多く開かれること。
2. （プロジェクトの）残存期間である3年間の訓練計画は運営委員会へ提出されること。
3. 委員会の構成

現在の委員会は、パナマ人7人と日本人1人（チーフ・アドバイザー）で構成されているが、これは非常なアンバランスである。

これに加え、パナマ側メンバーの何名かは高官である。これ等高官が、本プロジェクトの基

本方針の作成や評価に参加することは非常に意義があるが、訓練コースのプログラム立案はこれら高官にとりあまりにも小さな仕事である。

従って、これらプログラム・プランニング及び理論と実技の訓練コースのカリキュラムを作成し、討議するための作業委員会(Working Committee)を設置することが得策である。

更に、この作業委員会は本プロジェクトを迅速且つ効果的に運営するための機関としての役割も果たす事が出来るものとする。

[X] 作業委員会

1. 委員会の構成

(1) パナマ側

カナルオンセ局局长

カナルオンセ局次長

カナルオンセ局 5 人の部長

カナルオンセ局のその他必要なスタッフ

(2) 日本側

チーフアドバイザー

日本人専門家

2. 機能

作業委員会の目的は、関係双方の当事者より提案された本プロジェクトに関係する、どのような議題でも討議することであり、又、本プロジェクトの円滑で効果的な運営のため、現行R/Dの枠内での解決策若しくは解決案を作成し、或いは選別することである。

3. 開催の時期

作業委員会は、毎月開かれるものとする。必要な場合には、関係者双方の同意により何時でも開かれるものとする。

計画打合せチームが、カナルオンセ局(パナマ国営教育テレビ放送計画)への日本の協力のために提出した諸提案につき、カナルオンセ局と日本の計画打合せチームは、本メモランダムが一旦双方により署名されたならば、以上の諸提案が実施されるべきもの、実動あるべきものとして受入れる事に合意した。

パナマ : 1983年3月18日

署名

署名

Hiromi Kamba

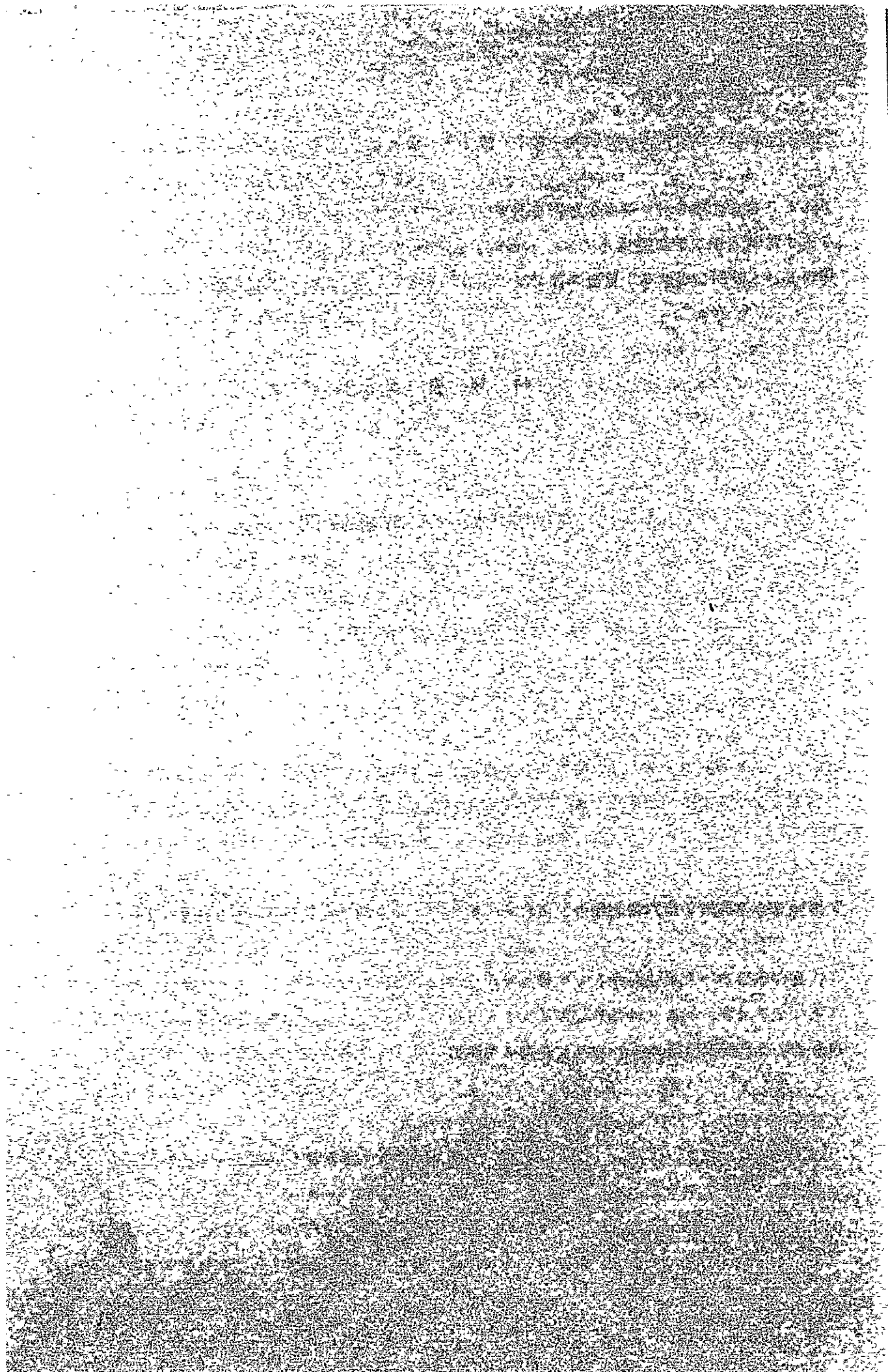
Iitzel V, de Cortéc

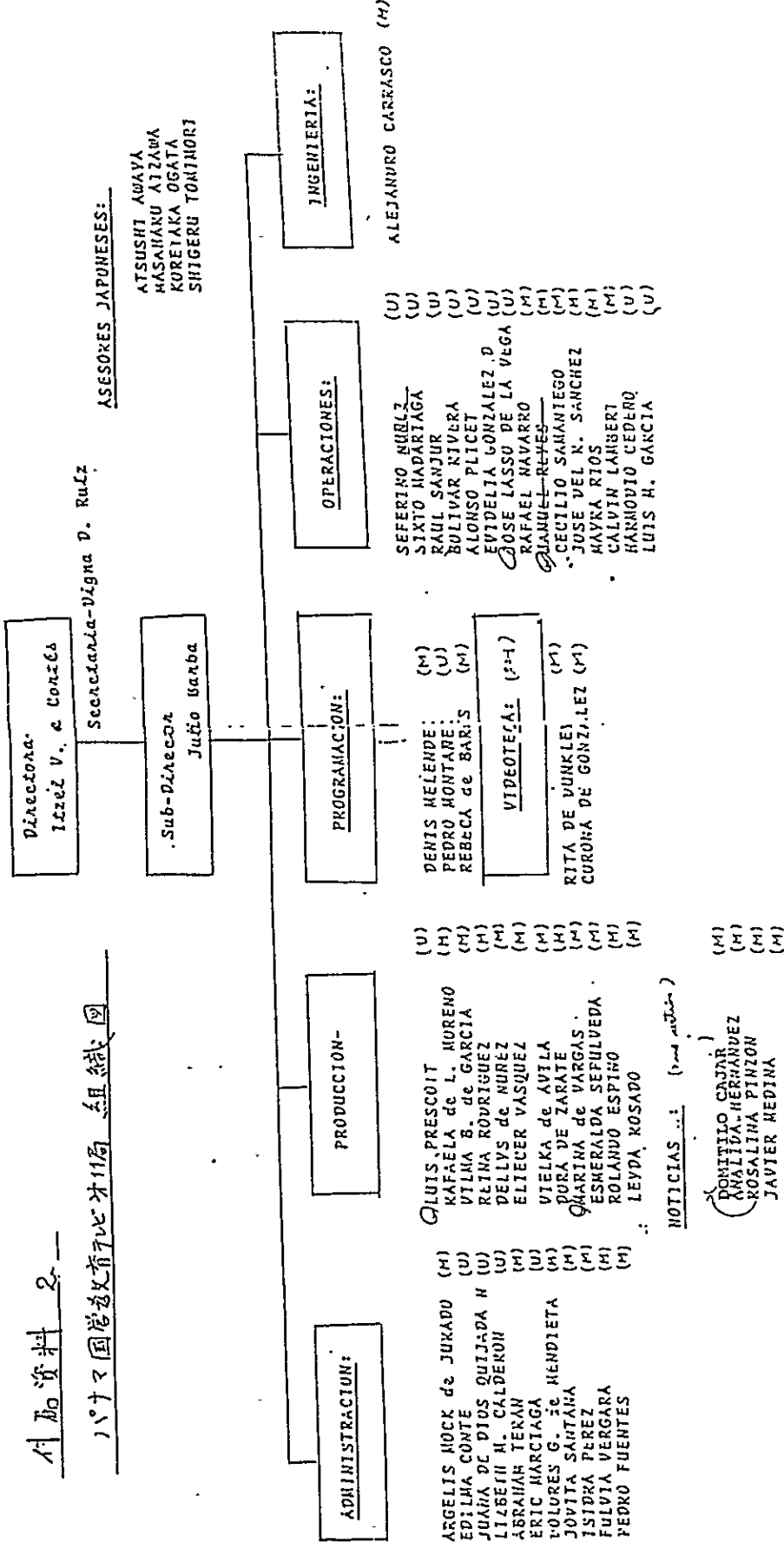
日本計画打合せチーム団長

カナルオンセ局局长

付 属 資 料 2

カナルオンセ局組織図





付 属 資 料 3

プ ロ ジ ェ ク ト 実 績 表



プロジェクト実績表

パナマ国営教育実績表
テレビ放送計画

年度	S 5 5 - 1 9 8 0 年度	S 5 6 - 1 9 8 1 年度	S 5 7 - 1 9 8 2 年度	S 5 8 - 1 9 8 3 年度	S 5 9 - 1 9 8 4 年度	S 6 0 - 1 9 8 5 年度
協力期間 チーム派遣	6/13 7/14 10/27 2/15 3/15 4/15 5/21					2/10
長期	要員 内(チームリーダー-放送) 12/21 相沢雅夫(番組制作) 10/5 新方雅孝(送信技術) 12/4 富森 茂(スタジオ技術) 3/20			12/20 10/4 12/3 3/19		
専門家		12/1 1/17 辛島敏浩 吉田善美	10/25 12/15 10/25 12/18			
派遣						
短期						
主要						
機材供与						
機材		I. VHF TV送信システム(1. 5kW VHF テレビ送信機, 2. 出力同軸装置, 3. 入力及び電源装置, 4. 自動電圧調整機, 他) II. カラーテレビジョンシステム(1. スタジオカメラ装置, 2. テレビスタジオ装置, 3. マスターコントロールルーム, 4. 空間調整装置, 5. 撮影装置, 6. 工材他) 他				
金額		GIF/パナマ 233,216,373円	91,725,116円 (総額 46,850,021円)			
カウンターパート 研修受入		4名(うち研修 3名) 5/30 6/13 Miss Grischla Lopez Perez (AM&C 当時) 5/30 6/13 Miss Lizee Velez Lopez (当時) 9/15 10/5 Mr. Remallo Barria (技術部長) 9/15 10/5 Mr. Juan Ramirez (放送技術ディレクター)	1/20 3/14 Mrs. Vilma Barbi de Garcia (プロデューサー)			
備考						

付 属 資 料 4

プロジェクト計画及び実績対象表



〔 B 〕プロジェクト計画及び実績対照表

	頁
I プロジェクトの要請内容及び背景	61
II パナマ国営教育テレビ放送局への技術協力実施計画	61
1. プロジェクトの目的	62
2. 訓練対象分野	62
3. 訓練コース名	62
4. 訓練期間	62
5. 訓練時間	62
6. 訓練方法	62
7. 訓練対象者	63
8. 訓練参加資格要件	63
9. 訓練定員	63
10. 訓練内容	64
11. On-the-job training	65
12. プロジェクトの組織的位置付け	65
① 組織図	65
② プロジェクトに関する意志決定機関	65
(i) 政策レベル	65
(ii) 実務レベル	65
13. 予算	66
① 予算のフローチャート	66
② 協力期間中の全体運営費	66
③ 維持管理運営費	66
III 日本側の協力責務	67
1. 専門家派遣	67
① 長期専門家	67
② 短期専門家	67
③ 専門家の職務	67
(i) 首席顧問の職務	67
(ii) 専門家の職務	67
④ 専門家グループとパナマ側要員との関係図(職務)	67

2. 機 材 供 与	69
(1) 大分類について	69
(2) 日本側の供与機材リスト	70
3. カウンターパートの受入計画	73
IV パナマ側の責務	74
1. スタッフの配置	74
(1) 配置計画	74
(2) 定着のための措置	77
(3) 放送局職員の給与	78
2. 土地、建物及び施設の確保	78
(1) 土 地	78
(2) 建 物	78
3. 「パ」側運営費の負担	79
4. 訓練資材の管理	80
V Steering Committee (運営委員会)	80
1. 構 成	80
2. 機 能	81

I プロジェクトの要請内容及び背景

パナマ政府は全国開発5ヶ年計画を進めているが、特に社会開発に重点を置き教育水準の向上に努めている。「パ」政府は基礎教育の普及文盲率の改善を目的とする教育テレビ放送局の設置につき55年1月我が国に対し技術協力を要請してきた。この要請に応じ日本は元文部省パナマ国立大学付属テレビ実験局のカナル・オンセに対し本格的な教育テレビ放送が行えるようプロジェクト方式技術協力をを行うことになった。

プロジェクトの内容

① 協力期間：5年間（昭和56年2月11日～昭和61年2月10日）

② 協力対象：パナマ国立教育テレビ放送局に携わる技術者に対し次の分野における理論・実技両面の訓練を行う。

- ④ 教育テレビ番組製作
- ㊦ テレビ番組制作技術
- ㊧ テレビ送信技術
- ㊨ 特殊専門技術

③ 供与機材：総額 4 億円程度

④ 専門家：チーフアドバイザー他8名

II パナマ国営教育テレビ放送局（第11チャンネル局）への技術協力実施計画

R/Dによる合意事項による。

1. 本プロジェクトの目的
 パナマ国の基礎教育の普及、文盲率の改善、教育水準の向上のため、パナマ国営教育テレビ放送局の番組制作能力の質的改善となるよう、パナマ国営教育テレビ放送局の技術系スタッフに対し、理論・実技両面の訓練を行う。
2. 訓練対象分野 Fields
 - A 教育テレビ番組制作 (Educational Television Program Production) Number to be trained 13
 - B テレビ番組制作技術 (Television Studio Engineering) Number to be trained 41
 - C テレビ送信技術 (Television Transmission Engineering) Number to be trained 5
 - D 特殊専門技術 (Special Technique) Number to be trained 9
3. 訓練コース名
 別添 R/D Master Planの通り (次頁のコピー参照)
4. 訓練期間
 Master Plan (R/D) 明記なし (最長1年間ということか?)
 Tentative Implementation Schedule 上も明記なし
5. 訓練時間
 Master Plan (R/D) 上明記なし
6. 訓練方法
 Master Plan (R/D) 上明記なし

	1983	1984~85	計
教育テレビ番組制作	5	8	13
スタジオ技術	10	31	41
送信技術	2	3	5
特殊技術	3	6	9
計	20	48	68

不明

一応、1年間を目安とするが、職種により必ずしも特定出来ない。

不明

今後3年間のコース開設について、対象、内容、期間、時期等についてパナマ側責任者 (ワーキング・コミティー) と協議し、早急に Technology Transfer 達成の認定条件を決めることとしたい。

不明

座談、訓練用特別番組の制作参加、ON-THE-JOB TRAINING を

- 7. 訓練対象者
カナルオンセ（パナマ国営教育テレビ放送局）の技術系スタッフ
7 総計 68名
- 8. 訓練参加資格要件
カナルオンセ局のテクニカルスタッフ以外（番組制作及び技術系含む）は一切制約なし。

9. 訓練定員

4分野別定員制である。次表の通り。

（実施報告書10頁による）

Fields	Contents	Number to be trained	Trainees
Educational Television Program Production	1. Adult education program 2. Student education program 3. OB production 4. Programming 5. Study on the hour-people-spend-their-time	13	Present staff and those who will be recruited in this field
Television Studio Engineering	1. Video control 2. Audio control 3. TV camera work 4. Studio lighting 5. OB work & relay 6. VTR (includes editing) 7. Telecine control 8. Maintenance	41	Ditto

有効に組合せて指導する。
不明 40名
不明
カナル・オンセの番組制作、スタジオ技術、送信技術に携わる者とする。総勢40数名、小さなTV局で、しかも本人の学歴、能力、経験年数が異なっているので、これをひとつの教室で実施することはかなりの無理がある。
また、このような状況の中では、座講といっても職種によっては個人指導乃至は3～5名程度の小規模集団にならざるを得ない。

The Number to be trained

4分野	1983	1984~1985	計
番組	5	8	13
スタジオ技術	10	31	41
送信技術	2	3	5
特殊技術	3	6	9
計	20	48	68

(注) 上記訓練人員は今後3ヶ年に訓練する延人員

と考える。

Television Transmission Engineering	1. Transmitter work 2. Antenna work 3. Micro wave work 4. TV reception work 5. Maintenance	5	Ditto
Special Technique	1. Art design (includes title design) 2. Animation work 3. Necessary work for special technique	9	Ditto

10. 訓練内容

R/D上 Master Planによれば4分野別にコース名の記載あるも、年次別記載なし。(前項参照)
但し協定実施暫定スケジュール表付記として年次計画及び年間目標標明記あり。

FIVE YEAR PLAN OF TECHNICAL COOPERATION AND ITS YEARLY TARGETS

- 1st year: 1) Planning of the basic policy of the Project operation
2) Check-up of machinery and equipment
3) Set-up of the training guidance plan in every fields of program production and engineering
4) Training of the staff in the form of on-the-job-training (OJT).
- 2nd year: 1) Fundamental and theoretical education in program production, studio engineering and transmission engineering
2) Draw-up and inventory of machinery and equipment
3) Re-set-up of the training guidance plan in every fields of program production and engineering
4) Training of the staff (OJT)
5) Overall fundamental introduction of program production, studio engineering and transmission engineering in the form of on-the-job training.
- 3rd year: 1) Training for professional-minded engagement in program production, studio engineering and transmission engineering
2) Draw-up an inventory of machinery and equipment
3) Application work of the fundamental technique in program production, studio engineering and transmission engineering
4) Training of the newly employed staff (OJT)

- 4th year: 1) Application work of the fundamental technique in program production, studio engineering and transmission engineering
 2) Independent production of program
 3) Independent training of the newly employed staff
 4) Draw-up of inventory of machinery and equipment
- 5th year: 1) Independent production of programs
 2) Independent training of the newly employed staff
 3) Check-up the inventory of machinery and equipment
 4) Evaluation
 5) Consultation for self-reliant operation
 6) Finish-up of the training plan of the staff of Canal Once for fully independent operation in program production, studio work and transmission work

(実施報告書 P 1 5)

11. On-the-job training

R/D 上明記なし

12. プロジェクトの組織的位置付け

- ① 組織 図
- ② プロジェクトに関する意志決定期間
- ④ 政策レベル

◎ 実務レベル

現実には 100% 近く on-the-job training である。座学のための教室もない。専門家の部屋もない。

付属資料 2 を参照。

不明

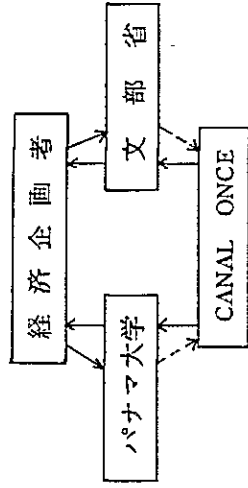
- ① 予算要求, 執行 (文部大臣及びパナマ大学学長)
- ② 人事 (採用, 契約更新) (文部大臣及びパナマ大学学長)
- ③ 契約事項 (文部大臣及びパナマ大学学長)
- ④ CANAL ONCE の基本政策 (文部大臣及びパナマ大学学長, 要員訓練に関する事項は STEERING COM)

不明

- ① 局内人事異動 (CANAL ONCE 局長)
- ② カウンタートーナメントの指名 (")

＜計 画＞

13. 予 算
- ① 予算のフローチャート



＜実 績＞

- ③ 研修派遣者の決定 (CANAL ONCE 局長)
- ④ 番組の企画承認と当該番組の担当決定 (CANAL ONCE 局長)

- ② 協力期間中の全体運営費
事前報告書 P 6 1

(ドル)

	1981	1982	1983
文 部 省	173,583	217,944	171,234
大 学	74,204	167,056	225,460
計	247,787	385,000	396,694

- ③ 維持管理経費
- 人 件 費
- 光 熱 費
- 消 耗 品 費
- 訓練用機材費
- そ の 他

＜1983年＞

人 件 費 266,930ドル

光 熱 費 10,130

消 耗 品 費 12,000

訓練機材 69,410

そ の 他 38,224

Ⅲ 日本側の協力責務

1. 専門家派遣

① 長期専門家 R/D上Annex IIによると

首席顧問 (Chief Adviser)

1

教育テレビ番組制作 (Educational television program production)

1

テレビスタジオ技術 (Television studio engineering)

1

テレビ送信技術 (Television transmission engineering)

1

② 短期専門家

必要な場合派遣されるものとする。

③ 専門家の職務

① 首席顧問 (Chief Adviser) の職務

Chief Adviser は、日本人専門家スタッフを統轄し、プロジェクトに関わる事項に関し、カナル・オンセ局長に必要な技術的・運営上の助言を与える。更に必要に応じ、カナル・オンセ局長とも協議の上、教育省の次官若しくはその他必要な者に対し技術的・運営上の助言を与える。

② 専門家の職務

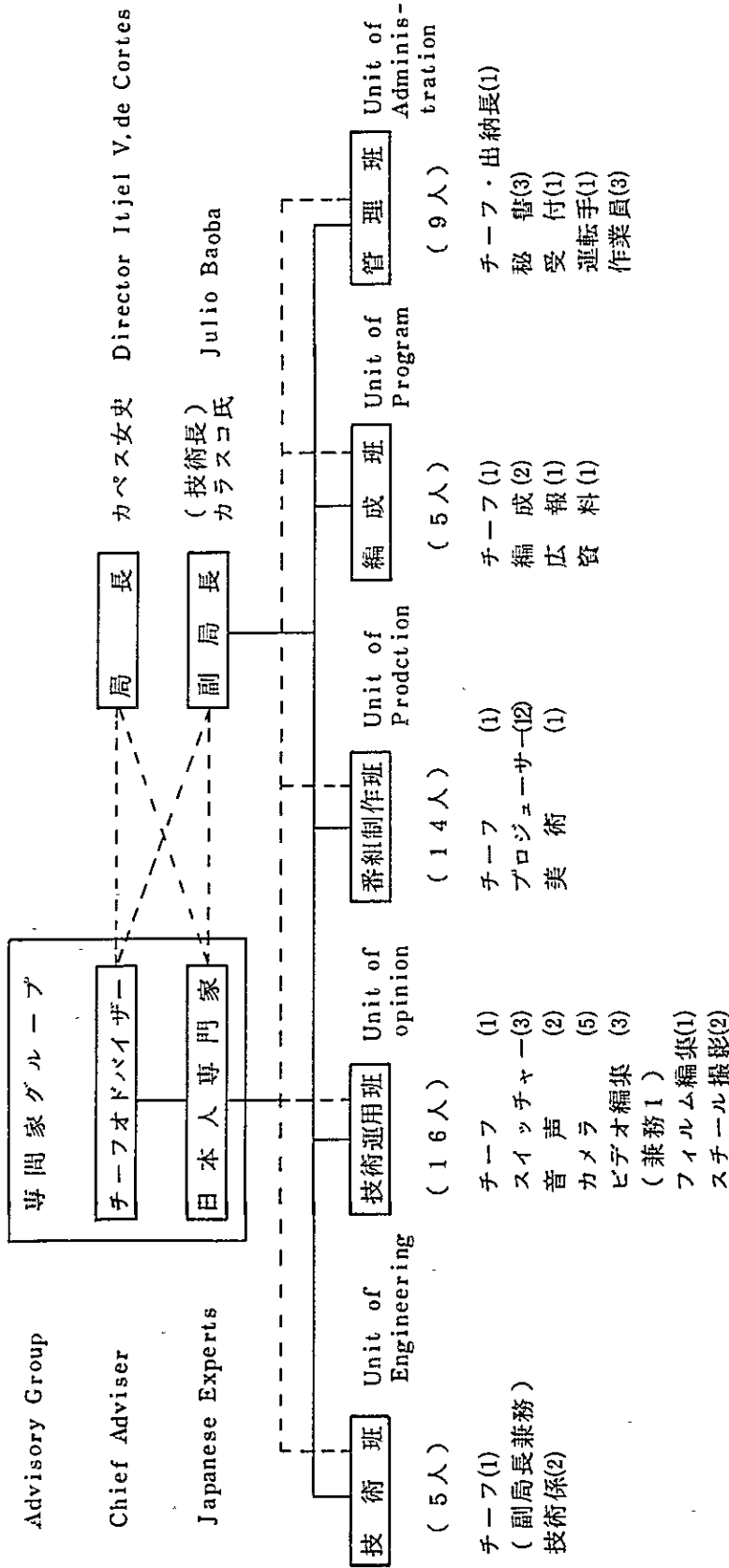
カウンタースパートに対し、専門分野の技術的指導を行う。

④ 専門家グループとパナマ側要員との関係図

- ① チームリーダー (56. 12. 21～58. 12. 20) 1名
- 番組製作 (56. 10. 5～58. 10. 4) 1名
- スタジオ技術 (57. 3. 20～59. 3. 19) 1名
- 送信技術 (56. 12. 4～58. 12. 3) 1名

- ② 送信機機材据付調整 (56. 12. 1～57. 1. 17) 2名
- 照明機器据付調整 (57. 10. 25～57. 12. 18) 2名
- スタジオ機器据付 (57. 10. 25～57. 12. 15) 2名
- スタジオ機器調整 (57. 11. 10～58. 1. 8) 2名
- S T L 機器据付調整 (57. 12. 1～58. 1. 8) 1名

教育テレビ局 (Coral Oncc) 組織図



2. 機材供与

(1) 5 大分類であるが、総額については R/D 報告書上明記なし。

- I VHF TV Transmitter
- II Color TV Studio System
- III OB Van
- IV EFP Van
- V Test Equipment

但し、Minutes of Meeting (1981年2月11日付 実施協化チーム団長とカナル・オンセ局長間) 付属文書 Provision Schedule of Machinery and Equipment では最初の 3 年間に (第 1 段階, 第 2 段階, 第 3 段階) 全て供与することとなっている。

機材供与実績

5 6 年度 2 3 4 百万円
 5 7 年度 9 2 “
 (5 6 年からの繰越) 5 3 “
 計 約 3 7 9 百万円

Annex PROVISION SCHEDULE OF MACHINERY AND EQUIPMENT

Items	1st stage (1981-1982)	2nd stage (1982-1983)	3rd stage (1983-
1. Studio Camera Chain	100 %		
2. Telecine System with monitor equipment		100 %	
3. Video Tape Recorder		25 %	25 %
4. Studio & Master Control Equipment (Video/Audio equipment, inattallation materials, monitor equipment and intercome equipment)	70 %	30 %	

Annex PROVISION SCHEDULE OF MACHINERY AND EQUIPMENT

Items	1st stage (1981-1982)	2nd stage (1982-1983)	3rd stage (1983-
1. Studio Camera Chain	100 %		
2. Telecine System with monitor equipment		100 %	
3. Video Tape Recorder		100 %	
4. Studio & Master Control Equipment (Video/Audio equipment, inattallation materials, monitor equipment and intercome equipment)	70 %	30 %	

< 計

画 >

5. Lighting Equipment	60 %	40 %	
6. Clock System			100 %
7. Maintenance Equipment	50 %	50 %	
8. Power System	100 %		
9. Installation Material	55 %	45 %	
10. Spare parts	35 %	65 %	
11. Outside Broadcasting Van		100 %	
12. News Gathering System			100 %
13. VHF TV Transmitter	100 %		
14. Studio Transmission Link (STL) System	100 %		

(2) 日本側の供与機材リスト

機材リスト

I VHF TV Transmitter

1. 5kw TV Transmitter 1 set
2. Output Coaxial Equipment 1 set
3. P.I.E.& Monitoring Equipment 1 set
4. AVR 1 set
5. 6GHz Band STL 1 set

II Colour TV Studio System

1. Camera Chain 3 sets
2. Subcontrol Equipment 1 set
3. TC/VTR Equipment 1 set
4. Dubbing Equipment 1 set

< 突

結 >

5. Lighting Equipment		40 %	
7. Maintenance Equipment	50 %	50 %	
8. Power System	100 %		
9. Installation Material	100 %		
10. Spare Parts	35 %	65 %	
11. Outside Broadcasting Van		100 %	
12. News Gathering System			100 %
13. VHF TV Transmitter		100 %	
14. Studio Transmission Link (STL) System		100 %	

機材リスト

(発送年月)

I VHF TV Transmitter

1. 5kw TV Transmitter 1 set
2. Output Coaxial Equipment 1 set
3. P.I.E.& Monitoring Equipment 1 set
4. AVR 1 set
5. 6GHz Band STL 1 set

II Colour TV Studio System

1. Camera Chain 3 sets
2. Subcontrol Equipment 1 set
3. TC/VTR Equipment 1 set
4. Dubbing Equipment 1 set

画>

績>

＜計＞			＜実＞
5. Master Control Equipment	1 set	5. Master Control Equipment	(81.11.30,82.10.24) 1 set
6. Intercom Equipment	1 set	6. Intercom Equipment	(81.11.30) 1 set
7. AVR	1 set	7. AVR	(81.10.16) 1 set
8. Lighting Equipment	1 set	8. Lighting Equipment	(81.10.16,82. 3.25) 1 set
III OB Van		III OB Van	
1. Camera Chain	3 sets	1. Camera Chain	3 sets
2. Video Equipment	1 set	2. Video Equipment	(82. 9.16 1set) 1 set
3. Audio Equipment	1 set	3. Audio Equipment	1 set
4. Monitoring Equipment	1 set	4. Monitoring Equipment	1 set
5. Communication Equipment	1 set	5. Communication Equipment	1 set
6. 6GHz band FPU	1 set	6. 6GHz band FPU	(82.10.29) 1 set
7. Lighting Equipment	1 set	7. Lighting Equipment	1 set
8. VTR Equipment	1 set	8. VTR Equipment	1 set
9. Mobile Vehicle & Assembly	1 set	9. Mobile Vehicle & Assembly	1 set
IV EFP Van		IV EFP Van	
1. Portable Camera	1 set	1. Portable Camera	1set 済
2. VTR	1 set	2. VTR	(82. 9.16) 1 set
3. Mobile Vehicle	1 set	3. Mobile Vehicle	1 set
V Test Equipment	1 set	V Test Equipment	(82. 3.25,82. 9.16) 1 set

(実施報告書 P 1 9)

(2) 日本側の供与機材リスト

据付状況

供与した全ての機材は58年2月現在据付済

▽ 送信機器(セロ・オスターロ) 57年1月 据付完了

▽ EFP Van 57年11月 配備完了

- ▽ 照明機器 57年12月 据付完了
- ▽ スタジオ機器(主調,副調,テレビ他) 58年1月 据付完了
- STL装置 58年1月 据付完了

訓練目的、訓練内容との整合性

教育テレビ局として一応の活動が可能となるよう、4つの訓練分野(番組制作, スタジオ技術, 送信技術, 特殊効果)に分け、それに対応する機材が供与されているが、CANAL ONCEの実情及び番組の制作、送出の指導をより効果的にするため既定の供与機材を補充する機材、すなわち番組伝送装置 FSS(写真等カードの映像変換装置)等の追加配備が望ましい。

とくに、特殊効果(アニメーション)用の機器の機器については、指導分野に明記されながら、供与機材に含まれていないので、CANAL ONCEの放送局規模ならびに実情に見合った簡易なアニメーション機器があれば、配備を考慮されたい。

機材稼動状況

供与機器の活用状況 83年8月

機材名	供与年度	活用状況
I VHF TV Transmitter		
1. 5kw TV Transmitter	81年度	1982.1.15より 常時使用
2. Output Coaxial Equipment	"	"
3. P.I.E. & Monitoring Equipment	"	"
4. AVR	"	"
5. 6GHz Band ST6	82年度	1982.12.28より 常時使用

< 計

画 >

< 実 績 >

機 材 名	供与年度	活用状況
II Color TV Studio System		
1. Camera Chain	81年度	
2. Subcontrol Equipment	"	
3. TC/VTR Equipment	81.82年度	
4. Dubbing Equipment	81年度	1983年1月5日 据付完了
5. Master Control Equipment	81.82年度	現在訓練に使用 中
6. Intercom Equipment	81年度	
7. AVR	"	
8. Lighting Equipment	"	
IV EFP VAN		
1. Portable Camera	} 82年度	随時使用
2. VTR		
3. Mobile Vehicle		
V Test Equipment	81.82年度	随時使用

受入実績

9人

1981

4人

1982

1人

1983

2人(予定)

1984

(予定)

3. カウンターパートの受入計画

カウンタパートの日本での研修 年間2名程度

(昭和56年) 1981 人

1982 人

1983

計

< 計 画 >

集団 運用部長 Ceudino 5名

< 帰任後 >

Glizerda Lopez前局長がやめた。1人のみ個別コーチ
Benitez氏が契約状況にない。
個人研修後 1988/4

< 実 績 >

1985 (予定)
計 (予定)

日本での研修の成果

(1) 技術面

ア 研修生として派遣後、専門家の指導意図を非常によく理解するようになり、指導効果が顕著になった。
イ 日本で本格的なTV制作プロセスを見学し、スタジオ・ワークに入る以前の制作手順についての理解が増進した。
ウ 他の開発途上国及び他の中南米諸国TV局との情報交換。

(2) 待遇面

研修参加のため、とくに改善されていない。
待遇改善を勧告中
別紙カウンタートチャートリストにより調査

パナマ側の対応

配置状況(年 月 日現在)
不明

IV パナマ側の責務

1. 「パ」側スタッフの配置

(1) 配置計画

R/D付表に基づくもの

6. Canal 11 現要員リスト

(1980年6月現在)

7. Canal 11

局長 Griselda Lopez

副局長 Alejandro Carrasco

編成班 5人

チー 7 Harry Iglesias

編 成	Denis E. Melendez
"	Mayra de villarreal
広 報	Bertalicia Peralta
資 料	Rita de Dunkley
番組制作班	14人
手	1 Luis Prescott
P. D.	Reynaldo Barria
"	Eva Maria Pinzon
"	Rebeca de Bares
"	Rolando Espino
"	Viima de Garcia
"	Roger Guerra
"	Reina Reinaida Rodriguez B.
"	Esmeraida Sepulveda
"	Marino C. de Vargas
"	Eliecer Vasquez
"	Vielka Yadira Vasquez
"	Dora de Zarate
"	Navarro Morepo
技術操作班	16人
手	1 Seferino Nuñez
S. W	Jacobo Reyna
"	Manuel Reyes Nuñez
"	Mayra Rios
音 声	Sixto M. Madariaga

＜計 画＞

＜実 績＞

音 声	Cecilo Samaniego
カ メ ラ	Hector Lopez
"	Jorge Vergara
"	José del Rosario Sanchez
"	Julio Manuel Aguilar Baena
"	Fernando Arturo Arang Amaya
ビデオ編集	Julio Manuel Aguilar Baena (兼務)
"	Irving J. Arroyo
"	Manuel Becker
フィルム編集	Jaime Benfitez
スチール撮影	Efrain Paz
"	Felix Nieto Moya
技 術 班	3人
チ ー ム 長	Alejandro Carrasco (兼務)
技 術 係	Luis Adrian Pinilla
"	Arcelio Vargas
管 理 班	9人
チーフ、出納長	Cecilia Robles
秘 書	Edilma Conte
"	Marysol Calvo
"	Dellys Cardenas
受 付	Dioma Damaris Ruiz
運 転 士	Humberto Correa
作 業 員	Isidra Perez Diaz
"	Dolores de Mendieta
"	Liberata Mela de Sanakey
計	48人

訓練対象となり得る Technical Staff は 40名である。

＜計 画＞

「パ」側職員の配置時期

- 局長 (1981年6月)
- 副局長 (1982年1月)
- (前歴1973年9月～1980年2月)
- 庶務班長 (1982年7月)
- ・技術班長 (1972年1月)
- ・番組制作班長 (1974年3月)
- ・技術運用班長 (1976年3月)
- 編成班長 (1976年5月)
- その他のカウンタート
- Marina de Vargas (1972年3月)
- Esmeralda Sepulveda (1978年5月)
- Rosalina Pinson (1980年9月)
- Vilma de Garcia (1977年12月)
- gose Lasso de la Vega (1982年9月)

(2) 定着のための措置

The Japanese Implementation Survey Team requested the Panamanian side to take measures to secure the permanent employment of the counterpart personnel who study in Japan. (ミニッツ3より)

＜実 績＞

(2) 定着状況

不明

1980年の CANAL ONCE 職員一覧表との比較では、当時48名の職員の中で現在24名が転出しており、職員の定着状況はきわめてわるい。

主たる原因は、①局長の更迭により、大統領府から着任した新局長の人脈に変わりつつあること。②1980年末 CANAL 13 (商業放送)が開局し、近くまた CANAL 5 (1983年5月 or 6月と言われている)が開局する予定で、経験者を高給でひきぬくためである。商放が特定の職種の技術者をひきぬく場合、給与は CANAL ONCE の1.5倍～2倍程度。

基本的には給与が国家公務員として低い水準に抑えられているので、これを改訂する以外に効果のある抑止策はない。

CANAL ONCE では研修生として日本へ派遣する前に、少くもプロジェクト終了までは定着するよう要望している。

現行の規程では“研修期間の2倍”となっているが、これを少しでも永くするよう努力する旨、大学学長、局長も発言しているが、何年間拘束するというような特定期間の明示はない。

< 計

画 >

(3) 放送局職員の給与

事前報告書 P 6 2

< 実

績 >

現在の職員の職位及び給与水準

例

職位	管理班, 編成班, 番組制作班, 技術操作班, 技術班
所長	
副所長	
チーフ	

局長	1,300ドル
副局長	950
庶務班長	700
技術班長	1,000
番組制作班長	500
技術運用班長	400
編成班長	300

(一般職員については, 200ドル~400ドル)

現在の確保状況

建築施設

- 1) 演奏所施設 (Canal 11) 56年6月に完成予定であった。
 - イ 敷地面積 1,704㎡ (516坪)
 - ロ 建築面積 825㎡ (250坪)
 - 既存部分 334㎡ (101坪)
 - 増築部分 491㎡ (149坪)
 - ハ 延床面積 1,051㎡ (319.5坪) カナル11の演奏所 876㎡ (265坪)

2. 土地, 建物及び施設の確保

- (1) 土地
 - ① スタジオ建物用
 - ② 管理棟用
 - ③ OB Van (中継車) 駐車場
 - ④ 送信アンテナ用土地
- (2) 建物
 - ① スタジオ
 - ② 管理棟
 - ③ 送信施設棟
 - ④ 上記以外のプロジェクト関連施設

<計

画>

<実

績>

840㎡(一
 パナマ大学歯学部
 24㎡(校舎内現用スタジオ
 12㎡(調整室
 スタジオ系空調機械室と大道
 具製作室を除く
 460㎡の施設の躯体工事完了

既存部分 490㎡(148.5坪)
 増築部分 561㎡(171坪)
 2) 送信所施設(56年4月完成予定)

イ 敷地面積 2,320㎡(703坪)
 ロ 建築面積 48㎡(14.5坪)
 既設部分 7㎡
 増築部分 41㎡
 41㎡の躯体工事完成

パナマ建築関係予算
 1981年
 1982年
 1983年

Canal 11 1980年予算 (事前報告書P61)

Canal 11 1980年度予算

収入	
総計	27,1538ドル
文部省予算 (de Ministeria)	20,2778ドル
パナマ大学予算 (de Universidad)	68,760ドル

3. 「パ」側運営費の負担
 「パ」側は運営費の全額を負担する。

＜計 画＞

4. 訓練資材の管理

＜実 績＞

支出		人件費	62,760
人件費 123,014 (gasta personal)	{ 57,324(固定給与) 59,400(臨時給与) 2,640(機械給与) 3,650(日帰日当)	制作費	6,000 { 3,000(パターン制作) 3,000(資料,事務)
非人件費111,270 (gasta non personal)	{ 2,500(印刷) 5,000(宿泊) 1,000(輸送) 1,020(迎送) 1,750(送料,事務,維持)		US\$1 = 220円
材料費 25,494 (gasta para material)	{ 388(ガソリン油) 23,400(パターン制作) 1,760(事務室)		
技術設備維持購入 43,000 (gasta para mantenimiento)			

V Steering Committee (運営委員会)

1. 構成

(1) パナマ側

- カナル・オンセセ局局長
- 教育省次官
- パナマ大学副学長 (Rector)
- カナル・オンセ副局長
- 経済企画省訓練局長
- 外務省国際組織局長

(1) 委員会の開催

- 第1回目 (82.1.5)
- 第2回目
- 第3回目

- (2) 日本側
首席顧問（日本側1名では構成がアンバランスである）
- (3) オブザーバー
在パ日本大使館代表

(2) 主要議題

82. 1. 5 は訓練計画との関係ではなく、パナマ政府内における CANAL ONCE の位置付け（AUTONOMIA）について論議されたものである。

パナマ大学と文部省の二重管理構造を解消するため、CANAL ONCE を大統領府直屬とし、予算・人事の自主管理を可能にする提案。

(3) 問題処理方法

今も、大学と文部省で検討されつつあるが、事態は進展せず、二重管理構造のまま。現実的な解決案として大学、文部省の二重管理は認容するとし、少くとも予算の執行を CANAL ONCE 局長に一任する「半自主管理」（SEMI-AUTONOMIA）の線で解決を目指している。

(4) 日本側メンバー位置付け、役割

職員の訓練計画、技術移転計画にかかわる CANAL ONCE 運営上の基本問題について、CANAL ONCE 側と協議のうえ議案をとりまとめること。

2. 機能

- ① 両国間で持つ正規の常設機関である。（R/Dに基づくもの）
- ② 本プロジェクトのスタッフ訓練その他の専門分野に関する各種計画の立案及び評価を行う。
- ③ プロジェクトの実施面で、特に予算、専門家要請、研修員受入要請及び機材要請との関連で評価する。
- ④ 両国の関係当局へ、プロジェクトの実施上の進展につき、何時何如なるレベルへも報告し得ること。

R/D上訓練分野

訓練分野		内容	過去の実績(第1年度)				
			受講者数		コース期間		
			開始時	終了時	ヶ月	時間/週	
I 教育テレビ番組制作	1. 番組編成	8	5	2		1981.2 S 56.2.11	1982.2 S 57.2.1
	2. 一般教養番組制作						
	3. 在宅児童、生徒向け教養番組制作						
	4. 局外中継番組制作						
	5. 放送番組利用促進・利用調査						
II テレビ番組制作技術	1. カメラワーク	3	3	4			教養番組の企画と構成 (相沢専門家81.10.5着任)
	2. 照明						
	3. 音声						
	4. 映像	2	2	1			カメラショットのきめ方(実地研修) (指導機材未着)
	5. VTR(編集を含む)						(指導機材未着)
	6. テレシネ	2	2	1			映像切替(実地研修)
	7. 局外中継	3	3	1			VTR編集器(座談と実習) (機材未着)
	8. 設備保守管理						(指導機材未着)
III テレビ送信技術	1. 送信機						
	2. アンテナ						
	3. マイクロウェーブリンク						
	4. 受信						
	5. 設備保守管理						
IV 特殊専門技術	1. 美術, デザイン, タイトル等の制作						
	2. アニメーション制作						
	3. 特殊効果						
	4. その他の必要な専門技術						

訓練分野		内容	過去の実績 (第2年度)				
			受講者数		コース期間		
			開始時	修了時	ヶ月	時間/週	
I 教育テレビ番組制作	1. 番組編成	1	1	3		1982.2 S.57.2.11	1988.2 S.58.2.11
	2. 一般教養番組制作	4	3	3			
	3. 在宅児童, 生徒向け教養番組制作	10	10	3			
	4. 局外中継番組制作	2	2	2			
	5. 放送番組利用促進, 利用調査	3	2	3			
	6. カメラワーク	3	3	4			
	7. 照明						
	8. 音声						
	9. 映像						
	10. VTR (編集を含む)	2	2	3			
II テレビ番組制作技術	1. テレシネ						
	2. 局外中継						
	3. 設備保守管理						
	4. 送信機						
	5. アンテナ						
	6. マイクロウェーブリンク						
	7. 受信						
	8. 設備保守管理						
III テレビ放送技術	1. 美術, デザイン, タイトル等の制作	2	2	1			
	2. アニメーション制作	2	2	1			
	3. 特殊効果						
	4. その他の必要な専門技術	2	2	1			
IV 特殊専門技術	1. 成人向教養番組の企画とテーマの発掘 新スタジオの機能と活用法	1	1	3			
	2. 局外録画番組の取材	4	3	3			
	3. 視聴者意向調査の狙い, 調査の方法	10	10	3			
	4. (機材未着)	2	2	2			
	5. (")	3	2	3			
	6. 映像機器の日帯調整 (実地研修)	3	3	4			
	7. (機材未着)						
	8. (")						
	9. 放送技術概論 (座談)	2	5	3.5			
	10. 放送工事工法 (実習) と機器据付調整 (実地研修)	7	7	3.5			
	11. TV送信機の基礎理論 (前半)	5	5	3			
	12. マイクロウェーブ機器据付工事実地研修 (基礎理論と中継実地研修)	5	5	3			

カウンターパート配置図

年月	R/D上分類部門	カウンターパート名	役職名	1981.2.11	5	8	11	1982.2.5	8	11	1983.2	
	I 教育テレビ番組制作	Luis Prescott	制作部長	番組制作(個別)								
		Esmeralde Sepulveda	制作副部長	番組制作(個別)								
		Vilma B. de Garcia	制作部員	教育TV番組コース(集団研修)								
		Marina de Vargas	"									
		Rosalina Pinzon	報道番組部長									
	II テレビ番組制作技術	Alejandro Carrasco	技術部長	TV送信機技術(個別)								
		Manuel Reyes	運用部副部長	TV技術コース(集団研修)								
		Jose L. de la Vega	運用部員									
		Jaine Benitez	"	照明ほか(個別研修)								
	III テレビ送信技術	Alejandro Carrasco (再掲)	技術部長	TV送信技術(個別)								
		Jose L. de la Vega (再掲)	運用部員									
		Luis Pinilla	"									
	IV 特殊専門技術											
	プロジェクトリーダー	Itzel V. de Cortes	局長	教育TV局運営(個別)								
		Julio Barba	副局長									

太線 日本研修期間を示す。

Target to be achieved at the end of the term of Cooperation

Fields and contents of the Project in the Master Plan of present R/D	Definition of Target Contents
<p>I Educational Television Program Production</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Programming 2. Adult Education Program } 3. Student Education program } 4. OB Production 5. Study on the how-people-spend-their time (utilization of program) <p>II Television Studio Engineering</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TV Camera work 2. Studio Lighting 3. Audio Control } 4. Video Control } 5. VTR 6. Telecine Control <p>Common from 1 through 6 above</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. OB work & relay 8. Maintenance 	<p>to establish program compilation policy and program schedule based on planned production administration especially reflecting on the number of staff and resources.</p> <p>to enable self-reliant program production, based on continuous planning and proposal; to reach a certain level of Spanish edition production too .</p> <p>at least reach a level capable of presentation , videotaping and editing of sample . OB program (including "live")</p> <p>after deliberation of the fundamental public relations policy, consider promotion of program utilization measures, taking into account of TV viewers intention as much as possible.</p> <p>to master the fundamentals of studio camera work and theories of camera shooting so that the information and cultural programmes can be produced independently.</p> <p>to get used to the fundamental lighting techniques in the studio so as to produce medium scale programmes.</p> <p>to study of audio and video equipment system and to practice of switching and control techniques so as to produce programmes independently.</p> <p>audio field , mic arrangement and mixing technique should be mastered.</p> <p>to get used to the independent operation in recording , reproduction and editing, recording technique can be acquired.</p> <p>to master function and operation of telecine equipment.</p> <p>to master integrated operation of new studio.</p> <p>to reach a level of producing outside broadcasting programme (medium scale) independently.</p> <p>to enable staff to get used to the daily adjustment of the operating equipment as well as to aim at the ability of fault-finding and repairing , based upon the fundamental theories.</p>

<p>III Television Transmission Engineering</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Transmitter work 2. Antenna work 3. Micro wave work 4. TV Reception work 5. Maintenance 	<p>to understand theory and to master operation of transmitter.</p> <p>to understand theory of antenna and radio propagation.</p> <p>to understand theory to master operation of micro wave link (FPU & STL).</p> <p>to understand theory of reception and function of TV receiver and to master field strength measurement.</p> <p>To establish the periodical check-up system and to enable to repair in case of finding trouble.</p>
<p>IV Special Technique</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Art design 2. Animation work 3. Necessary work for special technique 	<p>to train staff to a certain degree of artistic design and animation could be used in program production.</p> <p>to begin with using chroma-key generator & special effect waveform generator, if possible other equipments.</p> <p>at least, an elementary level of the technology should be disseminated to some members of staff.</p>

Training Schedule for Canal Once

Fields & Contents

(Classified in R/D Master Plan	1983 ...		1984 ...		1985 ...	
	2. II	4	6	8	10	12
I	Educational Television Program Production					
1.	Programming (4)					
* Building up the foundation of management	Basic study					
* Principle of Educational Program Compilation	Towards consolidation of management foundation					
* Measures for raising the ratio of self-production	Establishment of determined programming Policy					
* Guidance for planning of reference broadcast materials	Survey on programming based on correlation between resources (staff & equipments) and production hours					
2	Adult Education Program					
(1) Cultural program	Fundamental survey					
(2) News & information program	Guidance & planning for reference material arrangements					
3.	Education program (youth & children)					
* Educational program	Planning & production of trial programs for housewife & adults etc.					
* school Education program (including home study program)	Fundamentals of coverage methods					
Common	Practical guidance to coverage & production					
* Development of fundamental technology of program production	Study on proposal, programming & production					
	Towards stabilization of program production					

(Classified in R/D Master Plan)	1983 ...		1984 ...		1985 ...	
	2.11	4	6	8	10	12
..... Planning & proposal			stabilization of planning system		planning of the "serial" programs	
..... Composition & Script			comparatively simple program	Various categories of programs		
* Cultivation of production method			Pre-guidance utilization of (talk, dialogue, panel meeting, music program etc.) new studio	Training of fundamental studio program production	serial program, special, feature programs	
(1) Common For Spanish edition of purchased program			dubbling in Spanish of simple program for variation infant children		more complicated dubbing in Spanish edition including sound effect & music	
4. OB Production				presentation, video-tape recording & editing of simple program	short-time transmission program	long-time transmission program
* Presentation of program						
* Presentation of live transmission program					trial of live transmission program	
5. Study on study on Audience Research						
* Promotion of educational program utilization				study of the need & intention of TV Viewers	guidance & deliberation of utilization promotion measures	
* Guidance to program publicity activity				basic analysis of public relations activity	grasping the effects of publicity action	
II Television Studio engineering						
1. TV Camera work (3)			equipment harding	camera work & picture composition	picture continuity	higher lighting technique
2. Studio Lighting (4)						

(Classified in R/D Master Plan)	1983 ...		1984 ...		1985 ...	
	2	11	4	6	8	10
3. Audio Control (2)			explication on system	fundamental of audio control	introduction to audio equipment	
4. Video Control (1)				fundamental of video control		
5. VTR (including editing) (6)			introduction to VTR			VTR theory
6. Teletext Control (7)						
6. Common			periodical trial production of studio program	general instruction in daily work		
7. OB work & relay (5)				lecture on system & composition of OB van	preparation for OB production (lecture)	
8. Maintenance (8)			introduction to TV camera	fundamental of TV system maintenance	periodical trial production of O.B. program	
III Television Transmission Engineering						
1. Transmitter theory						
* Final Stage power Amplifier(8F)						
2. Antenna & Radio wave propagation						
3. Micro wave						
4. TV reception						
* Electric wave intensity measurement						

(Classified in R/D Master)	1983 ...		1984 ...		1985 ...		
	2.11	4	6	8	10	12	
5. Maintenance			inspection & practice once a week at transmitting site				
II Common Basic Broadcasting Engineering theory							
III * Electric physics in general			discretionary lectures				
* Colour TV theory			TV signal fundamentals	synchronism	fundamentals of electronic circuits	theory of receiver equipments (camera tube)	pick up tube colour television theory
IV Special Technique							
1. Art design (including title design)			training by a short-term expert				
2. Animation work							
3. Necessary work for special technique			specific lighting by short term experts				

The number to be trained

年度 4分野	1983	1984～1985	計
番組	5	8	13
スタジオ技術	10	31	41
送信技術	2	3	5
特殊技術	3	6	9
計	20	48	68

